

年 報

— 平成27年度 —



No. 5

八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館

目次

I	沿革	1
II	施設概要	
	1. 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（本館）	2
	2. 八戸市縄文学習館（是川縄文館 分館）	3
III	教育普及等	
	1. 常設展示	4
	2. 企画展示	6
	3. 教育普及の実績	10
	4. 定住自立圏広域的体験学習支援事業（はっふる隊）	15
	5. 八戸ロマン時空探検隊	15
	6. 地域連携	15
	7. 世界文化遺産登録へ向けた取り組み	16
	8. 調査研究	17
	9. 広報・情報発信	20
	10. ミュージアムショップ・喫茶コーナー「これカフェ」	21
IV	埋蔵文化財調査等	
	1. 発掘調査事業概要	22
	2. 調査概要	26
	3. 発掘調査報告書	37
	4. 全国公立埋蔵文化財センター協議会	37
	5. 情報公開	37
	6. 史跡整備	39
	7. 是川遺跡出土品保存修理事業	40
	8. 埋蔵文化財保存活用事業	40
V	管理運営概要	
	1. 協議会等	41
	2. 日記抄	42
	3. 来館者利用状況	45
	4. 市内小中学校利用状況	46
	5. 資料利用状況	46
	6. 資料収蔵	50
	7. 予算概要	50
VI	組織・関係団体	
	1. 組織及び職員構成	51
	2. 八戸縄文保存協会	51
	3. 是川文化財愛護会	51
	4. 是川縄文隊	52
	5. 縄文是川ボランティア	52
	利用案内	53

I 沿革

是川縄文館は、市内の遺跡から出土した埋蔵文化財の積極的な公開・活用、適切な保存管理に努め、埋蔵文化財保護の重要性を伝えるため、埋蔵文化財センターとして平成23年（2011）に開館した。是川遺跡、風張1遺跡等の発掘成果をふまえた展示や体験交流等を通して、市民や来館者が地域文化の魅力を再発見し、誇りや愛着が感じられる郷土づくりに資する。

また、八戸市縄文学習館は、考古館・歴史民俗資料館とともに是川遺跡と一体となって活用を図る「是川遺跡文化学習ゾーン」の中核施設として、平成6年（1994）に開館した。平成23年（2011）5月に一時休館し、展示リニューアルを経て、同年7月10日に改めて開館した。なお平成23年度機構改革により、八戸市縄文学習館は八戸市博物館分館から八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館分館へ所管替えとなった。

- 昭和32年（1957）： 「是川石器時代遺跡」国史跡指定。
- 昭和36年（1961）： 泉山岩次郎氏、斐次郎氏ご兄弟から出土品の寄贈を受ける。
- 昭和37年（1962）： 寄贈品のうち、中居遺跡出土品633点が重要文化財に指定。
- 昭和38年（1963）： 「考古館」完成（9月30日）。
- 昭和49年（1974）： 「歴史民俗資料館」完成（3月30日）。
- 昭和50年（1975）： 「歴史民俗資料館」開館（5月10日）。
- 平成5年（1993）： 3月 「縄文学習館」基本設計完成。 4月 縄文学習館展示指導員会議実施。
5月 建築予定地発掘調査実施（8月終了）・地質調査完了。
6月 映像展示ソフト製作委託実施。 7月 建築実施設計完成。
8月 展示実施設計完成。
- 平成6年（1994）： 3月 建築・設備・展示各工事完成。
6月 「縄文学習館」開館（6月24日、八戸市博物館分館）。
- 平成7年（1995）： 是川遺跡文化学習ゾーンオープン（2月22日）。
- 平成9年（1997）： 「是川縄文の里整備基本構想」を策定。
- 平成15年（2003）： 「是川縄文の里整備検討委員会」を設置し、基本構想見直し。
- 平成16年（2004）： 「是川縄文の里整備検討委員会」が（仮称）是川縄文博物館の建設に向けて建設計画等を検討。史跡追加指定。
- 平成17年（2005）： （仮称）是川縄文博物館の建設用地取得。
- 平成18年（2006）： 施設の機能にあわせ（仮称）是川縄文館と改める。プロポーザル方式で設計業者を選定し、基本設計を実施。
- 平成19年（2007）： 実施設計を実施。
- 平成20年（2008）： 造成工事を実施し、建設工事に着手。
- 平成21年（2009）： 建設工事及び展示設備Ⅰ期工事を実施。
- 平成22年（2010）： 展示設備Ⅱ期工事及び外構・駐車場工事を実施。
- 平成23年（2011）： 4月 機構改革により縄文学習館が「八戸市博物館分館」から「八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館分館」に所管替え。
5月 「考古館」・「歴史民俗資料館」閉館、「縄文学習館」一時休館、縄文学習館展示等改修業務委託実施。
6月 縄文学習館展示等改修業務委託完成。
中居遺跡出土品330点が重要文化財に追加指定（総数963点）。
7月 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館開館（7月10日）。
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館条例及び施行規則、組織等規則施行。
開館記念企画展「八戸の埋蔵文化財」開催（7月10日～9月25日）。
開館記念講演会「是川遺跡の現在と未来」開催（7月17日）。
8月 来館者1万人達成。 ※本館観覧者数
10月 開館記念特別展「縄文至宝展」開催（10月15日～11月13日）。
- 平成24年（2012）： 7月 開館1周年行事開催（7月7日～7月24日）。 来館者5万人達成。 ※本館入館者総数
- 平成25年（2013）： 史跡追加指定（史跡総面積213,497㎡、遺跡全体の56.78%）。
- 平成26年（2014）： 6月 来館者10万人達成。 ※本館入館者総数

II 施設概要

1. 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（本館）

(1) 施設の名称と位置

- 名称：八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館
- 住所：青森県八戸市大字是川字横山1

(2) 施設の概要

- 構造：1階鉄筋コンクリート造+2階鉄骨造
- 敷地面積：13,752.55㎡ ○建築面積：2,602.98㎡ ○延床面積：4,593.82㎡
- 建築基本・実施設計：(株)岡設計 ○展示基本・実施設計及び施工：(株)丹青社

(3) 主要施設・面積 ※床面積 1階：2,408.19㎡ 2階：2,185.63㎡

階	室名	面積(㎡)	階	室名	面積(㎡)	階	室名	面積(㎡)
1F	体験交流室	142.8	1F	館長室(応接室)	36.87	2F	図書閲覧コーナー	91.19
	アプローチ展示	229.53		事務室	79.12		研修室	62.12
	特別収蔵庫	139.49		会議室	51.12		研修室	62.12
	特別収蔵庫前室	22.70		スタッフルーム	46.51		書庫	133.42
	一般収蔵庫	473.06		器材庫	56.25		研究室	151.13
	荷解場	104.62	2F	常設展示室	503.01		出土品整理室	143.47
	保存科学室	55.90		国宝展示室	46.60		図面整理室	87.86
	作業室	54.90		企画展示室	178.37		写真撮影室	41.66
	ミュージアムショップ	78.59		点時準備室	81.94		ベビーコーナー	4.48

○駐車場：普通車86台、大型バス6台、障がい者用3台 ○トイレ：2箇所（障がい者用含む、職員用除く）

(4) 建設事業費 ※総事業費：2,242,439千円

- 基本・実施設計：87,740千円 ○外構工事等：189,120千円 ○本棟工事等：1,628,434千円
- 器材庫建築工事等：50,012千円 ○展示工事：287,133千円



八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

2. 八戸市縄文学習館（是川縄文館 分館）

(1) 施設の名称と位置

- 名称：八戸市縄文学習館（八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 分館）
- 住所：青森県八戸市大字是川字中居3-1

(2) 施設の概要

- 構造：1階・2階鉄筋コンクリート造
- 敷地面積：15,668.10㎡ ○建築面積：526.34㎡ ○延床面積：623.82㎡
- 建築基本・実施設計：(株)武田菱設計事務所 ○建築工事：(株)大入建設
- 展示基本・実施設計及び施工：アール・エー・ビー開発(株)

(3) 主要施設・面積 ※床面積 1階：519.940㎡ 2階：103.880㎡

階	室名	面積(㎡)	階	室名	面積(㎡)	階	室名	面積(㎡)
1F	事務室	29.975	1F	常設展示室	118.673	2F	資料整理室	34.504
	情報資料室	29.635		体験学習室	80.750		収蔵庫	46.216

- 駐車場：普通車8台 ○トイレ：1箇所（障がい者用含む）

(4) 建設事業費 ※総事業費：341,671千円

- 基本・実施設計：11,845千円 ○外構工事等：5,789千円 ○本棟工事等：241,665千円
- 展示工事・映像資料製作：68,644千円 ○その他：13,728千円

(5) 展示改修等事業費

- 事業費：8,810千円 ○展示改修等委託受託者：アール・エー・ビー開発(株)



八戸市縄文学習館
（八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 分館）

III 教育普及等

1. 常設展示

(1) 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

常設展示は、直感的な手法では川遺跡を印象付け（右脳）、論理的な手法で詳しい解説を行なう（左脳）、対比的なコンセプトとしており、「縄文の美と謎を探る」ことをテーマとしている。

導入部のイメージ・シアターは、来館者に是川遺跡の特徴を印象付け、体験できるシアター空間。漆塗り遺物の赤と黒や縄文文様をテーマとする神秘的な「縄文への道」に続き、豊かな自然の中で植物を多用に利用したくらしを紹介する「縄文くらしシアター」で構成する。続く「縄文の美」は、「漆の美」「是川のみ」「風張の美」の3コーナーからなり、縄文人が作り出した造形美をじっくりと鑑賞できる空間とした。

左脳ゾーンとなる「縄文の謎」では、是川中居遺跡の発掘現場から、調査研究成果として「環境」「くらし」「わざ」「漆文化の広がり」という4つのテーマから紹介している。

続く「最新研究報告」は、埋蔵文化財センターの調査・研究成果を更新しながら展示する常新展示を目指している。平成27年度は前年度から引き続き、第4回「遺物を守る－金属製品の保存処理」を公開している。合掌土偶は「国宝展示室」の免震・密閉式展示ケースにて展示されている。

なお、1階アトリウムはガイダンス展示となっており、八戸市の遺跡や、全国の縄文遺跡について調べることができる体験型の端末「はちのへ遺跡ログ」・「是川羅針盤」を設置している。

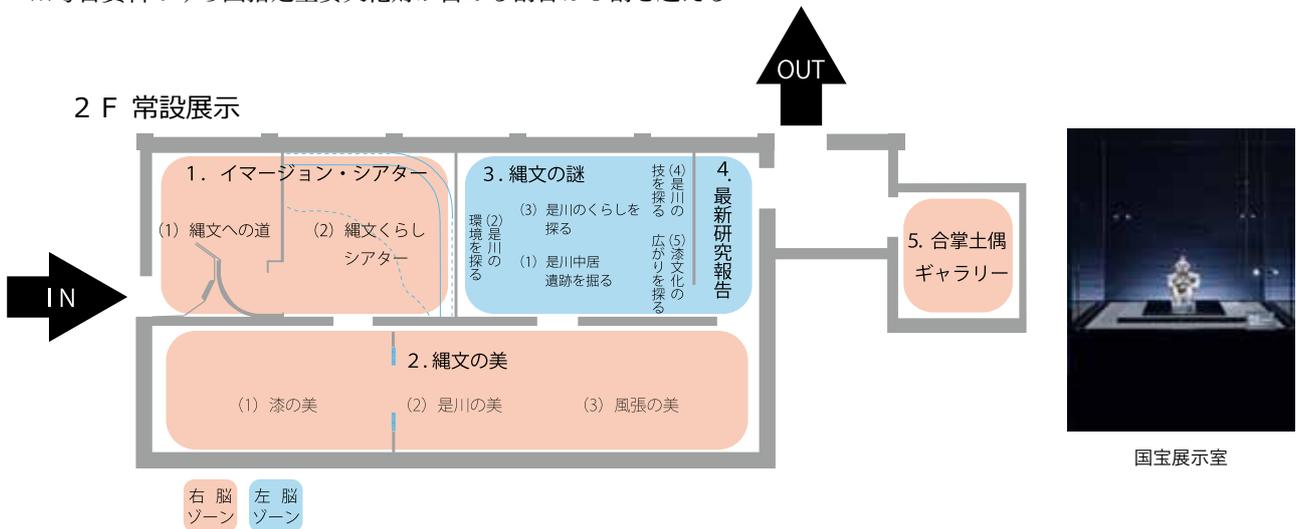
展示室	展示品	重要文化財	指定外	レプリカ	復元品	民俗資料
漆の美	53	51	2	-	-	-
是川のみ	226	182	44	-	-	-
風張のみ	203	203	-	-	-	-
縄文の謎	87	49	3	1	24	10
最新研究報告	19	-	6	13	-	-
国宝展示室	1	※国宝1	-	-	-	-
計	589	486	55	14	24	10



縄文の美

常設展示品（平成27年度）

※考古資料のうち国指定重要文化財が占める割合は8割を超える

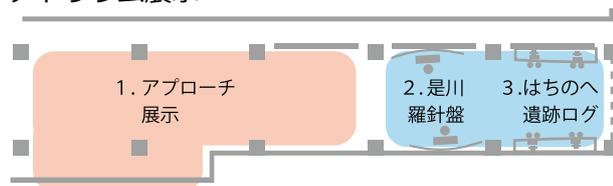


国宝展示室



是川羅針盤

1 F アトリウム展示



展示構成

(2) 八戸市縄文学習館（是川縄文館 分館）

是川縄文館分館の常設展示では、是川遺跡の学史的背景や概要について紹介するとともに、埋蔵文化財センターの役割について解説しており、本館常設展示へのプロローグとなっている。

I 是川遺跡と泉山兄弟

是川遺跡の発掘と保存に大きな功績を残した泉山岩次郎、斐次郎ご兄弟を顕彰し、泉山ご兄弟による是川遺跡発掘の歴史や、考古学研究者たちとの関わり等について紹介する。

II 是川遺跡

是川遺跡を構成する一王寺遺跡（縄文時代前期～中期）、堀田遺跡（縄文時代中期）、中居遺跡（縄文時代晩期）について概要を紹介する。また各遺跡の日本考古学史に残る貴重な発見について解説している。

III 是川遺跡の環境

中居遺跡の花粉分析の成果をもとに、縄文時代晩期の頃の環境について紹介する。また屋外に植栽した縄文時代の植物を散策してもらうよう、植物の種類・地点を図表で示しており、フィールドミュージアムの要素を盛り込んでいる。

IV 埋蔵文化財センターの役割

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館の機能・役割について紹介する。展示は「埋蔵文化財の保護」、「発掘調査」、「整理作業」、「発掘調査報告書の作成」、「埋蔵文化財の活用と普及」の5項目で構成し、埋蔵文化財保護意識の啓発に努める。また、これまで作成・刊行した八戸市内の遺跡の発掘調査報告書を設置し、閲覧できるようになっている。

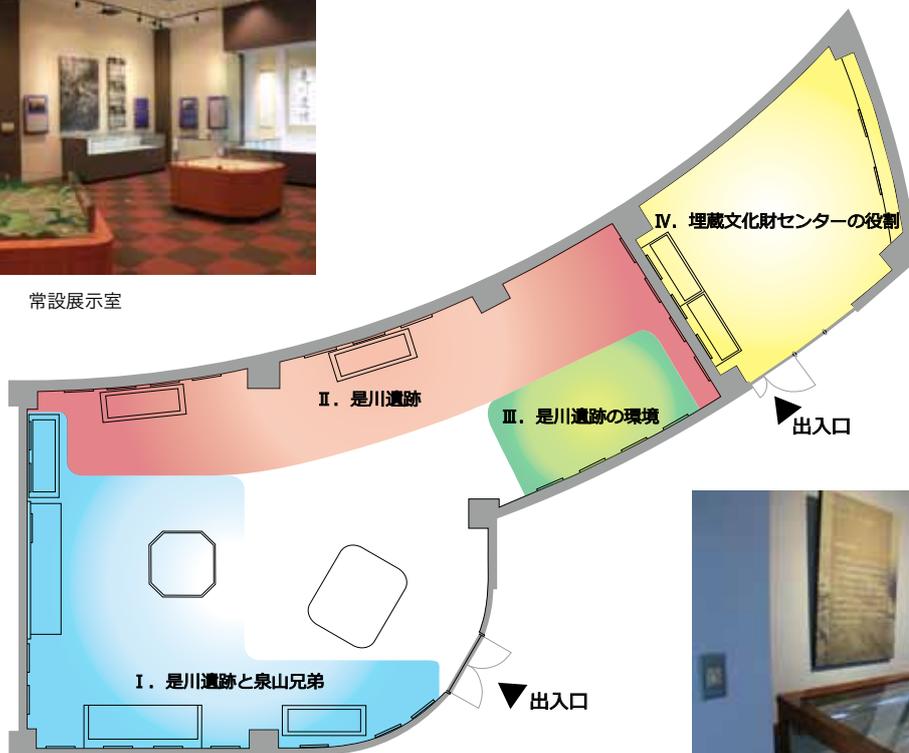
展示室	展示品	文献史料	民俗資料
是川遺跡と泉山兄弟	61	51	10
是川遺跡	3	3	-
埋蔵文化財センターの役割	6	6	-
計	70	60	10

常設展示品（平成 27 年度）

※埋蔵文化財の展示公開はしていない



常設展示室



展示構成



IV 埋蔵文化財センターの役割

2. 企画展示

平成27年度は、春季企画展「掘り day はちのへ～平成26年度発掘資料展～」、特別展「漆と縄文人」、秋季企画展「小川原湖周辺の縄文文化」のほか、冬季にパネル展「伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真-」を開催した。

(1) 春季企画展「掘り day はちのへ～平成26年度発掘資料展～」

開催期間 4月25日(土)～6月21日(日) 51日間

観覧者数 4,477名 (88人/日)

展示資料数 190点

印刷物 ポスター(B2版)500枚 解説リーフレット(A3版)20,000枚

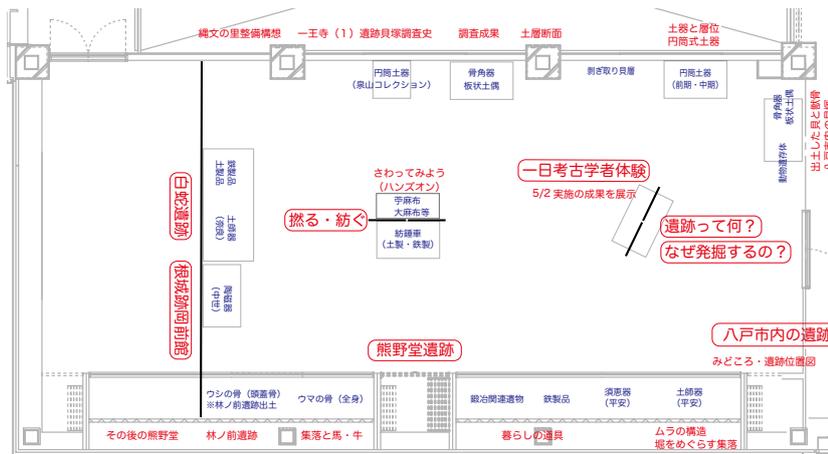
用語解説・展示品一覧(A3版)5,000枚、招待券670枚

主な展示品 縄文土器(一王寺(1)遺跡)、石器(一王寺(1)遺跡)、土師器(白蛇遺跡・熊野堂遺跡)、陶磁器(根城跡岡前館)、動物遺存体(一王寺(1)遺跡)

併催行事 1日考古学者体験 5/2 午前11時～・午後2時

ギャラリートーク 5/9、6/7 各日とも午前11時～・午後2時～

平成26年度に八戸市内で行われた、主要な発掘調査の成果および出土品を紹介した。一王寺(1)遺跡の土壌サンプルを水洗し、遺物や動物遺存体を検出・分類する1日考古学者体験を実施し、参加者に修了証を発行した。また、分類した資料は企画展の中で紹介した。調査を担当した学芸員によるギャラリートークを開催した。



企画展示室

展示構成



春季企画展リーフレット



導入部解説パネル



1日考古学者体験

(2) 特別展「漆と縄文人」

開催期間 7月25日(土)～9月6日(日) 39日間

観覧者数 5,753名(148人/日)

展示資料数 162点

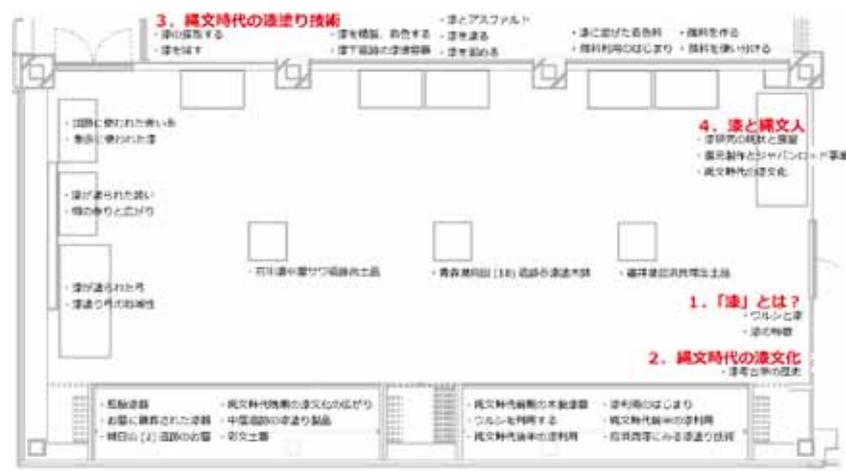
印刷物 ポスター(B2版)500枚 リーフレット(A4版)50,000枚

解説リーフレット(A3版)5,000枚 招待券2,500枚 特別展図録(A4版112ページ)500部

主な展示品 漆塗り土器(秋田県中山遺跡・漆下遺跡・戸平川遺跡、青森県亀ヶ岡遺跡・五本松遺跡)、木胎漆器(福井県鳥浜貝塚、秋田県池内遺跡、野辺地町向田18遺跡)、籃胎漆器(石川県中屋サワ遺跡、秋田県戸平川遺跡、青森県朝日山(2)遺跡)、漆塗り弓(岩手県萩内遺跡、秋田県中山遺跡)、櫛(石川県米泉遺跡・中屋サワ遺跡、秋田県中山遺跡、岩手県萩内遺跡)、腕輪(石川県中屋サワ遺跡・鹿首モリガフチ遺跡、岩手県岩谷洞穴)、漆液容器(秋田県漆下遺跡・戸平川遺跡、八戸市中居遺跡)、漆漉し布(秋田県中山遺跡、新潟県野地遺跡、青森県亀ヶ岡遺跡)、糸玉(新潟県青田遺跡、秋田県漆下遺跡)、漆パレット(新潟県青田遺跡、八戸市中居遺跡)、ウルシ材の容器(青森県岩渡小谷(4)遺跡)

併催行事 特別展ギャラリートーク 8/1,8,15,22,29 午前10時～
特別展考古学講座 8/29 午後2時～

是川遺跡に代表される縄文時代の漆文化をテーマとし、縄文人と漆との関わりについて、東北と北陸の優品を中心に展示紹介した。展示に先立ち、当館の収蔵・展示資料である是川遺跡出土の漆製品について、外部機関の協力を得て顔料の理科学分析を実施し、研究成果を展示に反映させた。前年に引き続き、前期考古学講座を特別展のイベントとして位置付け、漆についての考古学講座を開催し、アトリウム柱や階段に特別展に合わせた館内装飾を実施し、特別展開催の雰囲気作りを行った。展示室付近に漆塗り曲物容器のペーパークラフトを用意した。



企画展示室
展示構成



特別展リーフレット



展示状況



漆塗り土器(鳥浜貝塚)

III
教育普及等



展示状況



鼻曲がり土面（上尾駁(1)遺跡）



企画展イベント（手形足形作り）



足形付土製品（上尾駁(2)遺跡）

(4) パネル展「伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真-」

開催期間 12月19日(土)～3月21日(月)

56日間

観覧者数 2,775名(49人/日)

展示資料数 24点

主な展示品 写真パネル、写真原版レプリカ、
保存箱、カメラ（八戸市博物館蔵）、
写真掲載書籍

埋蔵文化財活用活性化事業の一環として平成26年度より実施している写真原板の保存修理事業による写真パネル展。高精度デジタル化によって製作した写真パネルのほか、写真機や保存箱などを共に展示し、写真による記録の必要性和重要性を紹介した。写真原板は発掘調査時の遺跡の様子や出土品が記録されているガラス乾板である。



展示状況

3. 教育普及の実績

一日考古学者体験

実施	講師	参加者(人)
5/2(土)	(午前) 村木淳・杉山陽亮・船場昌子(当館学芸員)	21
	(午後) 村木淳・杉山陽亮・船場昌子(当館学芸員)	21
	合計	42

企画展「掘り day はちのへ」ギャラリートーク(展示解説)

実施	講師	参加者(人)
5/9(土)	(午前) 船場昌子・(午後) 苧坪祐樹(当館学芸員)	7
6/6(土)	(午前) 横山寛剛・(午後) 西村広経(当館学芸員)	7
	合計	14

考古学講座

実施	内容	講師	参加者(人)
5/16(土)	下宅部遺跡からみた縄文時代の漆技術ーウルシ林の管理から漆補修までー	千葉敏朗氏 (東村山ふるさと歴史館学芸員)	55
6/20(土)	世界一の縄文漆文化ーもの作りの本のルーツー	岡村道雄氏 (奈良文化財研究所名誉研究員)	81
7/11(土)	亀ヶ岡文化の漆製品とその製作技術	上條信彦氏(弘前大学人文学部准教授)	52
12/5(土)	食の多様性と縄文考古学	羽生淳子氏(総合地球環境学研究所教授, カリフォルニア大学バークレー校教授)	56
1/16(土)	土器の発明と縄文クッキーを科学分析で探る	國木田大氏(東京大学大学院人文社会系研究科付属次世代人文学開発センター特任助教)	55
2/6(土)	花粉からみた縄文人と植物との関わりー是川中居遺跡を中心にー	吉川昌伸氏(古代の森研究舎)	47
		合計	346

特別展ギャラリートーク

実施	講師	参加者(人)
8/1(土)	市川健夫(当館学芸員)	12
8/8(土)	市川健夫(当館学芸員)	19
8/15(土)	小久保拓也(当館学芸員)	16
8/22(土)	小久保拓也(当館学芸員)	14
8/29(土)	四柳嘉章氏(石川県輪島漆芸美術館 館長)	55
	合計	116

特別展考古学講座

実施	内容	講師	参加者(人)
8/29(土)	縄文時代の漆文化	四柳嘉章氏 (石川県輪島漆芸美術館 館長)	92
		合計	92

縄文の布を編む講座

実施	内容	講師	参加者(人)
9/5(土)	解説「縄文の布について」 実習「縄文の布を編む」	市川健夫(当館学芸員) 縄文是川ボランティア	9
		合計	9

縄文土器作り講座

実施	内 容	講 師	参加者 (人)
10/10(土)	素地土作り	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	15
10/17(土)	縄文土器作り (成形作業)	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	13
11/21(土)	縄文土器野焼き	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	22
合 計			50

企画展ギャラリートーク (展示解説)

実施	講 師	参加者 (人)
10/17(土)	小久保拓也 (当館学芸員)	13
10/31(土)	市川健夫 (当館学芸員)	15
11/21(土)	小久保拓也 (当館学芸員)	13
合 計		41

企画展イベント「赤ちゃん大集合！粘土で縄文の手形・足形づくり」

実施	講 師	参加者 (人)
10/31(土)	小笠原善範 (八戸市博物館学芸員)・小久保拓也 (当館学芸員)	59
合 計		59

企画展考古学講座

実施	内 容	講 師	参加者 (人)
11/ 7(土)	小川原湖周辺の縄文遺跡と貝塚	齊藤慶吏氏 (青森県教育委員会文化財保護課文化財保護主査)	74
合 計			74

これかわ考古学クラブ

実施	内 容	講 師	参加者 (人)
4/25(土)	考古学ではどんな研究をして何がわかるのか？	市川健夫 (当館学芸員)	2
4/26(日)	是川遺跡の研究からわかった縄文人の暮らし①	市川健夫 (当館学芸員)	2
8/ 1(土)	是川遺跡の研究からわかった縄文人の暮らし②	市川健夫 (当館学芸員)	1
8/ 2(日)	縄文人のものづくり技術①	市川健夫 (当館学芸員)	1
8/ 8(土)	縄文人のものづくり技術②	市川健夫 (当館学芸員)	2
8/ 9(日)	縄文人のものづくり技術③	市川健夫 (当館学芸員)	2
合 計			10

ボランティア養成講座 ※6/13,7/4は土曜体験教室と併催。

実施	内 容	講 師	参加者 (人)
5/23(土)	縄文是川ボランティアについて	市川健夫 (当館学芸員)	23
5/30(土)	是川遺跡について	小久保拓也 (当館学芸員)	22
5/30(土)	是川遺跡のガイドについて	市川健夫 (当館学芸員)	22
6/ 6(土)	是川縄文館常設展示解説①	小久保拓也 (当館学芸員)	27
6/ 6(土)	是川縄文館常設展示解説②	小久保拓也 (当館学芸員)	23
6/13(土)	縄文土器作り教室 (実習)	縄文是川ボランティア・市川健夫 (当館学芸員)	14
6/13(土)	縄文学習館展示解説	市川健夫 (当館学芸員)	12
6/26(金)	博物館研修	縄文是川ボランティア・市川健夫 (当館学芸員)	20
7/ 3(金)	縄文土器野焼き実習	市川健夫 (当館学芸員)	16
7/ 4(土)	合掌土偶作り教室 (実習)	市川健夫 (当館学芸員)	17
合 計			196

ボランティア養成講座 ※2/20,3/12は土曜体験教室と併催。

実施	内 容	講 師	参加者(人)
1/23(土)	縄文是川ボランティアについて	市川健夫(当館学芸員)	32
1/30(土)	縄文の布を編む実習	縄文是川ボランティア・市川健夫(当館学芸員)	17
2/13(土)	文化財保護とボランティア活動	栗村知弘氏(八戸縄文保存協会会長)	23
2/20(土)	縄文土器作り教室(実習)	縄文是川ボランティア・市川健夫(当館学芸員)	38
2/27(土)	A E D 講習	八戸消防署救急隊	39
3/ 5(土)	滑石で勾玉作り教室	縄文是川ボランティア・市川健夫(当館学芸員)	27
3/12(土)	縄文土偶作り教室(実習)	縄文是川ボランティア・市川健夫(当館学芸員)	24
3/19(土)	火起こし・耳飾り作り実習	縄文是川ボランティア・市川健夫(当館学芸員)	35
3/25(金)	博物館研修(洋野町・久慈市方面)	市川健夫(当館学芸員)	25
3/26(土)	弥生時代の青森	工藤竹久氏(青森県文化財保護審議会委員)	35
合 計			295

日曜日縄文体験コーナー 体験学習指導：縄文是川ボランティア

実施	内 容	参加者(人)
夏季前期：4/ 5(日)～7/19(日)	火起こし・縄文土器作り・縄文土偶作り・土製耳飾り作り・琥珀勾玉作り・滑石勾玉作り・文様拓本・縄文の布を編む	236
夏季後期：8/30(日)～10/25(日)		136
冬 季：11/ 1(日)～3/27(日)		263
合 計		635

夏休み縄文体験コーナー 体験学習指導：縄文是川ボランティア

実施	内 容	参加者(人)
7/25(土)～8/16(日)	火起こし・縄文土器作り・縄文土偶作り・土製耳飾り作り・琥珀勾玉作り・滑石勾玉作り・文様拓本・縄文の布を編む	318
合 計		318

これかわ縄文まつり体験コーナー 体験学習指導：縄文是川ボランティア

実施	内 容	参加者(人)
8/23(日)	火起こし・縄文土器作り・縄文土偶作り・土製耳飾り作り・縄文の布を編む	196
合 計		196

発掘調査現地説明会

実施	遺 跡 名	講 師	参加者(人)
6/13(土)	八幡遺跡	横山寛剛(当館学芸員)	50
8/17(土)	八戸城跡①	船場昌子(当館学芸員)	35
9/18(土)	八戸城跡②	船場昌子(当館学芸員)	6
10/31(土)	八戸城跡③	船場昌子(当館学芸員)	47
10/3(土)	田面木遺跡	苧坪祐樹(当館学芸員)	45
合 計			183

遺跡調査報告会

実施	内 容	講 師	参加者(人)
11/14(土)	重地遺跡(縄文時代)	西村広経(当館学芸員)	67
	田面木遺跡(古代)	苧坪祐樹(当館学芸員)	
	八幡遺跡(古代)	横山寛剛(当館学芸員)	
	八戸城跡(江戸時代)	船場昌子(当館学芸員)	
合 計			67

土曜体験教室 ※6/13,7/4,2/20,3/12はボランティア養成講座の参加者数と合算。

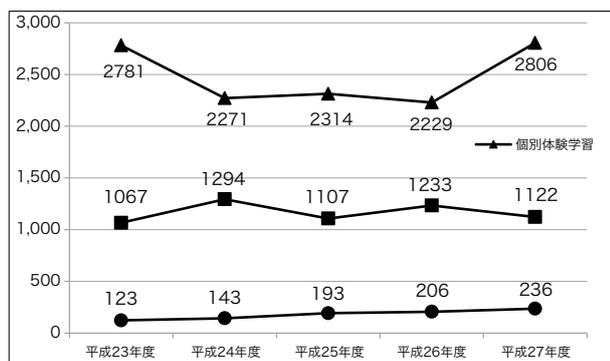
実施	内 容	講 師	参加者 (人)
4/18 (土)	縄文の布を編む教室	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	5
5/ 9 (土)	シカの角でペンダント作り教室	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	11
6/13 (土)	縄文土器作り教室	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	14
7/ 4 (土)	合掌土偶作り教室	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	17
9/19 (土)	シカの角で釣針作り教室	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	0
10/24 (土)	トチの実を食べる教室 (於分館)	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	23
11/28 (土)	ドングリを食べる教室 (於分館)	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	27
12/19 (土)	縄文土器の拓本教室	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	6
1/ 9 (土)	滑石でペンダント作り教室	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	10
2/20 (土)	縄文土器作り教室	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	39
3/12 (土)	縄文土器作り教室	市川健夫 (当館学芸員)・縄文是川ボランティア	25
合 計			177

学芸員による講話

実施	内 容	団体・場所	参加者 (人)
4/22(水)	講話「八戸の歴史」	ふるさとの味倶楽部 (於：是川縄文館)	18
5/27(水)	講話「島守探訪」	ふるさとの味倶楽部 (於：島守方面)	22
6/ 4(木)	講話「八戸の観光地」	ふるさとの味倶楽部 (於：是川縄文館)	18
6/12(金)	八幡遺跡現地説明	明治小学校5年生 (於：八幡遺跡)	50
6/24(水)	講話「種差観光スポット」	ふるさとの味倶楽部 (於：是川縄文館)	16
7/ 4(土)	講話「縄文トーク」	八戸ロマン時空探検隊 (於：是川縄文館)	25
7/ 8(水)	講話「種差海岸について」	ふるさとの味倶楽部 (於：種差海岸)	18
8/ 8(土)	講話「種差周辺の縄文文化について」	八戸ロマン時空探検隊 (於：種差少年自然の家)	25
8/25(火)	講話「八戸の歴史と文化遺産」	商工会議所観光サービス部会研修会 (於：パークホテル)	70
8/27(木)	講話「遺跡から見た古代の暮らし」	根岸公民館歴史講座講演 (於：根岸公民館)	40
9/ 8(火)	講話「八戸の歴史と観光」	八戸市タクシー協会タクシー乗務員研修会 (於：グランドサンピア)	116
9/ 9(水)	講話「八戸の歴史と観光」	八戸市タクシー協会タクシー乗務員研修会 (於：グランドサンピア)	117
9/10(木)	講話「八戸の歴史と観光」	八戸市タクシー協会タクシー乗務員研修会 (於：グランドサンピア)	117
9/12(金)	講話「縄文時代の八戸」	八戸市史講座 (於：八戸市立図書館)	70
9/18(金)	講話「八戸の戸って何？」	八戸市鷗盟大学 (於：是川縄文館)	65
10/ 4(土)	講話「八戸地方の古代社会」	八戸市史講座 (於：八戸市立図書館)	50
10/28(水)	講話「八戸検定の問題について」	ふるさとの味倶楽部 (於：是川縄文館)	24
11/ 3(火)	講話「是川と縄文の間で」	第63回北奥羽俳句大会 (於：デーリー東北新聞社)	130
11/17(火)	講話「縄文の里是川」	常現寺お年越法要 (於：常現寺)	400
11/21(土)	講話「見えるもの 見えないもの“縄文の祈り”」	はっち市2015ちっちゃな学び舎 (於：八戸ポータルミュージアム)	30
11/22(日)	講話「是川縄文文化」	縄文に遊ぶ会 (於：まなビレッジ学職開発株式会社)	13
11/25(水)	講話「是川歴史について」	ふるさとの味倶楽部 (於：是川縄文館)	23
11/27(金)	講話「歴史で地域を楽しむ」	八戸市老人クラブ連合会 (於：八戸市総合福祉会館)	150
12/ 5(土)	講話「蝦夷社会の様相～八戸周辺を中心として～」	第4回閉伊地方の蝦夷「古代三陸の昆布1,300年記念シンポジウム」 (於：宮古市民文化会館)	50
12/ 7(月)	講話「島守・中世の田んぼは未来遺産」	青森県土地改良団体連合職員会 (於：グランドサンピア)	89
12/12(土)	講話「是川遺跡からみた縄文文化」	盛岡市西部公民館歴史講座 (於：盛岡市西部公民館)	70
12/12(土)	講話「田面木遺跡」「重地遺跡」	青森県埋蔵文化財発掘調査報告会 (於：青森県総合社会教育センター)	163
12/13(金)	講話「八戸地域の古代集落の動態」	公開研究会 八戸の集落一万年 vol. 3 (於：是川縄文館)	52
2/11(木)	講話「縄文の里 是川の歴史をたどる」	歴史講演会 (於：是川公民館)	72
2/21(日)	講話「八戸地方の古代社会」	二戸市埋蔵文化財センター発掘調査報告会 (於：二戸市埋蔵文化財センター)	62
3/19(土)	講話「是川5周年を迎えて-最近の動きについて-」	八戸農和会 (於：ヴィアノヴァ)	21
合 計			2,186

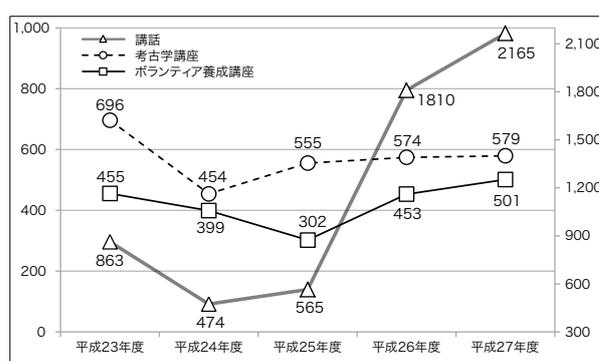
ボランティアによる体験学習の指導 ※参加者数は、各団体系来館者のうち実際の体験参加者数を記載する

月日	体験内容	団体名	参加者(人)	月日	体験内容	団体名	参加者(人)
4/11	火起こし	きくよしスクール	11	9/2	縄文土器作り	是川小学校4年	38
4/22	滑石の勾玉作り	南部町立南部小学校6年	15	9/7	縄文土器作り	是川小学校5年	33
4/23	縄文土器作り	三戸町立斗川小学校6年	7	9/9	縄文土器作り	是川小学校6年	40
4/28	火起こし・土器文様の拓本	大久喜小学校6年	10	9/11	土製ペンダント作り	是川小学校1年	32
4/30	縄文土器作り	五戸町立倉石小学校6年	29	9/15	土製ペンダント作り	十和田市第四白菊保育園	13
5/1	土製ペンダント作り	白山台小学校6年	172	9/16	縄文土器作り	是川小学校2年	34
5/8	縄文土器作り	明治中学校1年	28	9/19	滑石の勾玉作り・火起こし	南部町立向小学校6年	23
5/14	火起こし	NHK 青森	5	9/21	縄文土器作り	水戸キリストの教会	13
5/23	滑石の勾玉作り	ジョイフルパークユートピア	18	9/25	縄文土器作り	根城小学校6年	76
5/27	縄文土器作り	南部町立福地小学校6年	17	9/26	縄文土器作り	一般社団法人山城青年会議所	14
5/28	滑石の勾玉作り・火起こし	南部町立杉沢小学校5・6年	8	10/2	滑石の勾玉作り	三戸高等学校2年	62
5/29	縄文土器作り	南部町立剣吉小学校6年	25	10/4	火起こし・琥珀・滑石の勾玉作り	二ツ屋町内会	9
6/4	縄文土器作り	五戸町立上市川小学校6年	20	10/8	琥珀の勾玉作り	八戸商業高等学校国際経済科2年3組	39
6/4	縄文土器作り	五戸町立切谷内小学校6年	17	10/11	滑石の勾玉作り	八食わくわくフェスタ(於八食センター)	100
6/5	縄文土器作り	階上町立小舟渡小学校5・6年	9	10/12	滑石の勾玉作り	八食わくわくフェスタ(於八食センター)	111
6/7	火起こし	弘前縄文の会	5	10/15	火起こし	八戸第二義護学校中学部2年	17
6/10	縄文土器作り	吹上小学校6年	107	10/20	縄文土器作り	東根城婦人部	12
6/11	滑石の勾玉作り	新郷村立戸来小学校6年	14	10/22	縄文土器作り	八戸第二義護学校6年	9
6/11	土製ペンダント作り	八戸学院短期大学	90	10/23	縄文土器作り	米軍三沢基地内ソラーズ小学校6年	40
6/12	滑石の勾玉作り	三条小学校6年	45	10/27	縄文土器作り	米軍三沢基地内ソラーズ小学校6年	42
6/17	土製ペンダント作り	田面木小学校6年	43	10/30	テラコッタ野焼き	是川中学校(於是川中学校)	223
6/19	縄文土器作り	二ツ家老人クラブ(於二ツ家鳥谷荘)	26	10/31	滑石の勾玉作り	体験学習	5
6/20	滑石の勾玉作り	体験学習	4	11/10	縄文土器作り	階上町立大蛇小学校6年	13
6/25	滑石の勾玉作り・火起こし・縄文土器作り	体験学習	2	11/13	滑石の勾玉作り	柏崎小学校6年	91
6/25	火起こし	久慈市立小袖小学校5・6年	7	11/13	滑石の勾玉作り	青森県立八戸聾学校6年	2
7/1	縄文土器作り	種差小学校5・6年	12	11/17	縄文土器作り	多賀台小学校6年	25
7/2	滑石の勾玉作り	おいらせ町立百石小学校6年	42	11/17	縄文土器作り	田子町立清水頭小学校3～6年	10
7/4	土製ペンダント作り	八戸ロマン時空探検隊	25	12/1	火起こし・滑石の勾玉作り	町畑小学校6年(於町畑小学校)	73
7/6	滑石の勾玉作り	階上町立石鉢小学校6年	46	12/11	滑石の勾玉作り	陸上自衛隊八戸駐屯地	21
7/7	滑石の勾玉作り	金田一コミュニティセンター	15	12/12	滑石の勾玉作り	きくよしスクール	16
7/7	縄文土器作り	八戸市教育委員会初任者研修	31	1/6	土器文様の拓本・滑石の勾玉作り・火起こし	体験学習	3
7/9	縄文土器作り	南部町立名川南小学校5・6年	9	1/11	縄文土器作り	体験学習	2
7/14	滑石の勾玉作り	体験学習	2	1/16	火起こし	湊児童館母親クラブ	3
7/14	縄文土器作り	第6回石川家親睦会	10	1/29	縄文土器作り	五戸町立五戸小学校5年	66
7/31	縄文土器作り	体験学習	1	2/4	滑石の勾玉作り	城北小学校6年	99
8/5	滑石の勾玉作り	ふるさと学びあい推進事業	11	2/16	滑石の勾玉作り	八戸幼稚園(於八戸幼稚園)	60
8/8	縄文土器作り	体験学習	1	3/13	土製ペンダント作り	あおもり JOMON フェスタ(於イオン下田)	100
8/18	縄文土器作り	島守小学校6年親子レク	18	3/15	土製ペンダント作り	米軍三沢基地内ソラーズ小学校1年	25
8/21	縄文土器作り	自然に親しむ会	8	3/16	土製ペンダント作り	米軍三沢基地内ソラーズ小学校1年	26
8/21	縄文土器作り	自然に親しむ会	8	3/17	土製ペンダント作り	米軍三沢基地内ソラーズ小学校1年	26
8/22	滑石の勾玉作り	体験学習	2	3/18	土製ペンダント作り	米軍三沢基地内ソラーズ小学校1年	28
8/23	滑石の勾玉作り	五戸町立五戸小学校6年	90	3/21	火起こし	ソーシャルファームエッグス	7
8/29	縄文土器作り	東糠塚百働会(於糠塚集会所)	12	3/21	火起こし	体験学習	3
9/1	縄文土器作り	是川小学校3年	45			合計	2,806



過去5年間の体験学習の利用者推移

※平成23年度は7月からスタート



過去5年間の講演会等の利用者推移

※平成23年度は開館記念講演会等を含む

4. 定住自立圏広域的体験学習支援事業（はっふる隊）

平成27年度から八戸市教育委員会を中心に開始した連携事業。

「発見!ふるさと体験隊」（はっふる隊）という名称のもと、八戸圏域定住自立圏（八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村・おいらせ町）の小学校に年1回、貸切バスを無償で活用してもらえるようにし、圏域内の文化・スポーツ施設での学外研修を支援する取り組みである。当館においても市内小学校を含め、圏域内の小学校から体験学習・展示見学で多く活用されるようになった。

平成27年度は、八戸市内12校、市外10校、計1,012人の児童の体験学習指導・展示解説に対応した。



広域的体験学習支援事業での体験学習

5. 八戸ロマン時空探検隊

八戸ポータルミュージアムのAIR(アーティスト インレジデンス)事業で招聘したYORIKO氏による、八戸の縄文文化を軸にしたアートプロジェクト。6月から8月にかけてアーティストは八戸に滞在し、制作活動を行った。

プロジェクトでは、①縄文文化の基礎知識ツアー、②草木染めで縄文衣装づくり、③世界でひとつ!オリジナル土偶づくり、④時空探検隊基地での七夕まつり、⑤ミニ竪穴式住居と縄文村づくり、⑥時空探検隊の縄文合宿!といったプログラムが企画され、当館では①と⑥について、縄文時代に関する講座や展示解説、縄文ペンダント作り等に協力した。参加者は募集によるもので、親子での参加が大半を占めた。参加者からは、当館にはないプログラムに満足度の高い感想が寄せられた。



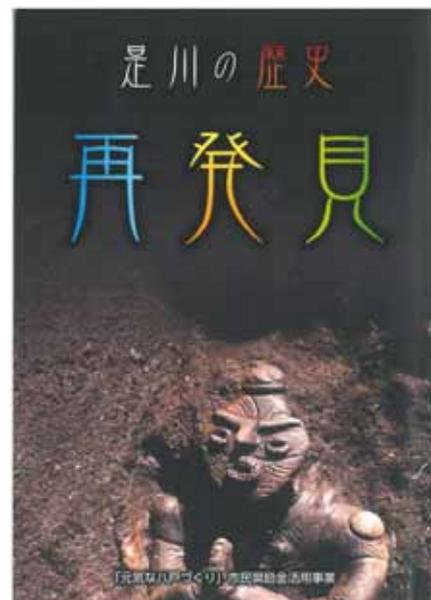
八戸ロマン時空探検隊①でのペンダント作り

6. 地域連携

○「是川の歴史 再発見」ガイドブック刊行協力

是川地区振興会（会長 古戸 良一 氏）を中心に、平成25年度から「是川の歴史再発見」に関する取り組みが行われ、『是川縄文の里MAP』や『是川の歴史再発見パンフレット』作成といった活動が展開されてきた。

これまでの取り組みが市民に好評となり、是川地区の歴史に関するより詳しい内容を求める要望が多く寄せられたことから、ガイドブックの刊行が平成26年度から構想された。「是川の歴史 再発見」ガイドブック作成委員会（編集委員長 本田 敏雄 氏）が組織され、約20回にわたり編集会議が行われ、刊行準備が進められた。当館からも編集委員として参画し、執筆・



「是川の歴史 再発見」ガイドブック

写真提供において連携を図った。

こうしたガイドブック刊行の取り組みは、「平成27年度「元気な八戸づくり」市民奨励金活用事業」に採択され、平成28年3月にB5版94頁の冊子として刊行された。是川地区を中心に市内各所へ配布された。是川地区の歴史や名所について詳しい解説がされている。

○是川縄文隊との連携

是川縄文隊は、是川地域の宝である是川遺跡の保

存、活用に寄与するとともに是川縄文館を核とした是川縄文の里の地域振興を図ることを目的に是川地区の中居町内会の有志により平成24年度に設立された。活動等についてはVI-4是川縄文隊に記載している。

これまで、是川縄文館のPRのほか、地域振興の一環として、来館者へ周辺ガイドマップを配布したほか、是川産直野菜を販売するなど地域のPR活動を行っており、是川遺跡の情報発信や、来館される方がたへのおもてなしの充実が図られている。

7. 世界文化遺産登録へ向けた取り組み

○世界遺産文化登録へ向けた活動

八戸市は、北海道・青森県・岩手県・秋田県の4道県14市町による共同推進体制の一員として、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指している。当市では、是川石器時代遺跡・長七谷地貝塚の2つが構成資産となっていたが、課題のある長七谷地貝塚は一旦除外されることとなった。

直近の機会での推薦・登録を目指し、推薦書案についての検討作業のほか、保存管理体制の検討を行っている。平成28年3月には、是川石器時代遺跡の保存と活用に関すること、世界文化遺産登録に関連する事項についてまとめた「史跡是川石器時代遺跡保存活用計画書」を刊行した。世界文化遺産登録には市民の理解が不可欠であるため、縄文遺跡群の内容を紹介したパネル展や各種事業に協力し、PRに努めている。

○縄文遺跡群パネル展

開催期間 ①8月23日(日)～10月9日(金)

②10月17日(土)～10月18日(日)

開催場所 ①是川縄文館分館(縄文学習館)

②八食わくわくフェスタ(八食センター)

概要 「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の概要説明、構成資産位置図、各構成資産の概要についてのA1版パネルを掲示した。②は、体験学習とともに、縄文文化の普及活動として取組んだ。

○あおり縄文フェスタ

開催期間 3月13日(日)9:00～17:00

開催場所 イオン下田イオンホール(おいらせ町)

概要 「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の推薦・登録への機運醸成のため、青森県が主催したイベント。縄文遺跡群のパネル展示をはじめ、三内丸山遺跡応援隊によるものづくり体験や、土器を模倣したドッキーづくり体験、クイズ形式のスタンプラリーや遺物展示が行われた。当館は、是川遺跡出土品の展示に協力したほか、縄文是川ボランティアの協力を仰ぎ、土製ペンダント作り体験を実施した。



八食わくわくフェスタ



あおり縄文フェスタ

8. 調査研究

(1) 共同研究

【第2期共同研究】

是川縄文館では、大学等の研究機関との共同研究を事業の1つとして掲げている。これは、共通のテーマを研究機関と連携して多角的に追究し、学術的に質の高い情報を企画展や講座等の場へ活用することを目的としたものである。

平成23年度(2011)から3ヵ年計画で東京大学大学院環境史研究室との第1期共同研究を行った。縄文時代前半期の環境変動と集落生態系の復原をテーマに、古八戸湾や十和田火山の巨大噴火を背景とする縄文人の生態系やその変化を明らかにした。

その中で、縄文時代後半期の復原も追究し、八戸地域の通時的な環境史、生態系史を明らかにしていく必要性を、東京大学・是川縄文館とで認識を共有するに至った。

第2期共同研究では第1期の成果に続き、とくに植物資源の利用に重点を置きつつ、縄文時代後半期における環境変動と集落生態系の復原を目指し、総じて八戸地域の過去一万年間の環境変動と集落生態系について検討していく。

- 共同研究テーマ 『八戸地域における縄文時代中期から晩期の環境変動と集落生態系の復原』
- 研究期間 2015年4月～2016年3月(2014年～2016年度の3ヵ年計画の2年目)
- 研究体制 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
 東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻 環境史研究室
 (代表 辻 誠一郎 教授、大学院生 安室 一 氏・中村 麻子 氏・坂手 久美子 氏)
 古代の森研究舎(吉川 昌伸 氏・吉川 純子 氏)
 株式会社 パレオ・ラボ(鈴木 茂 氏・安 昭炫 氏)
 上高津貝塚ふるさと歴史の広場(一木 絵理 学芸員)
 考古復原イメージイラストレーター・アーティスト(安芸 早穂子 氏)
 東京大学空間情報科学研究センター(早川 裕弐 准教授)
 国立科学博物館(植田 弥生 研究員)

○研究活動等

- ① 2015年5月30日～5月31日 第1回共同研究打合せ(於是川縄文館、共同研究会)
 発表「八戸地域の縄文後期集落」(村木 淳 当館参事)
 発表「是川石器時代遺跡の調査について」(小久保 拓也 当館学芸員)
 発表「八戸地域における縄文時代中期中葉～晩期に関する基礎情報」(西村 広経 当館学芸員)
 発表「是川遺跡における景観史のための既存の調査と今後の課題」(吉川 純子 氏・吉川 昌伸 氏)
- ② 2015年8月8日～8月9日 第2回共同研究打合せ(於是川縄文館、共同研究会)
 発表「風張(1)遺跡ボーリングコアの花粉分析結果に関する報告」(安室 一 氏)
- ③ 2015年10月31日～11月1日 第3回共同研究打合せ
 (於是川縄文館・風張(1)遺跡・八戸城跡、ボーリング調査)
- ④ 2016年2月21日～2月22日 第4回共同研究打合せ
 (於東京大学、共同研究会・2年目総括・研究計画の協議)

○関連活動

第四紀研究 54(5)「青森県八戸市の縄文時代早期貝塚出土試料の14C年代と海洋リザーバー効果」(一木 絵理・辻 誠一郎・杉山 陽亮・村木 淳・宇部 則保・中村 俊夫) ※第1期共同研究成果の一部

是川縄文館考古学講座「花粉からみた縄文人と植物との関わり－是川中居遺跡を中心に－」(吉川 昌伸、平成28年2月6日)

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館研究紀要第5号「是川遺跡の縄文時代晩期の景観復元」(吉川 昌伸・吉川 純子)



共同研究におけるボーリング調査

【東北芸術工科大学 研究プロジェクト事業協力】

八戸地域等をフィールドに、土地利用等の利活用形態や地域文化の継承といった集落の動態解明を目的として、考古学、歴史学、民俗学・人類学などの分野から研究が進められている。考古班では、八戸地域の集落一万年の動態解明のため、遺跡データベース構築等の研究活動を展開しており、当館では資料提供や集落研究について協力を行った。

○研究事業テーマ 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究」

○研究期間 2012年4月～2017年3月

○研究主体 東北芸術工科大学 東北文化研究センター (代表 田口 洋美 所長)

○協力活動 2015年7月18日～7月19日 『第4回全体研究会』(村木 淳 当館参事 出席)

於東北芸術工科大学

2015年12月13日『公開研究会 八戸の集落一万年 Vol. 3 なぜ村ができ、消えたか？

- 古代地域社会の動態 -』開催

報告「八戸地域の古代集落の動態」(宇部 則保 当館参事) 於是川縄文館

【特別展での研究協力】

平成27年度特別展「漆と縄文人」開催に先立ち、平成26年度から弘前大学北日本考古学研究センターに蛍光X線分析による是川遺跡出土漆塗り製品の顔料成分分析やX線CT・元素マッピング法を活用した製作技術等の分析、近畿大学大学院総合理工学研究科環境生物学研究室(南武志教授)に硫黄同位体比分析による是川遺跡出土漆塗り製品の朱の産地推定について、研究協力を得てきた。

そのうち、弘前大学北日本考古学研究センターによる研究成果は、特別展イベントとして開催した是川縄文館考古学講座(前期)「縄文時代の漆文化」において、弘前大学人文学部(現 同大学人文社会科学部)の上條信彦准教授より講演「亀ヶ岡文化の漆製品とその製作技術」のなかで報告され、参加者に特別展開催の期待感醸成を図ることができた。

研究協力によって得られた成果は、特別展展示ブース「赤色の顔料を調べる」・「朱を調べる」にて公開し、展示内容を充実させた。

さらに刊行した『特別展示図録 漆と縄文人』では、第一線の研究者による以下の寄稿を収録し、図録内容の充実を図ることができた。

「点描・縄文時代の漆文化」 四柳 嘉章 氏(石川県輪島漆芸美術館 館長)

「自然科学的分析からわかった亀ヶ岡文化の漆製品」 上條 信彦 氏(弘前大学人文学部(現人文社会科学部) 准教授)

「是川中居遺跡出土漆製品に付着した朱の産地推定の試み」 南 武志 氏(近畿大学大学院総合理工学研究科 教授)

「東北地方北部における縄文時代後半期の朱利用についての予察」 根岸 洋 氏(国際教養大学 助教)



研究成果を公開した展示パネル

(2) 学芸員の研究等業績：平成 27 年4月～平成 28 年3月

【論文等】

平成 27 年5月

宇部則保 「北三陸の古墳時代集落から古代集落変遷への展望」『考古学ジャーナル』669 ニューサイエンス社

市川健夫 「縄文時代 東北」『考古学ジャーナル』670 ニューサイエンス社

市川健夫 「青森県」『日本考古学年報』66 一般社団法人 日本考古学協会

市川健夫 「2015 年縄文時代関係文献目録」『縄文時代』26 縄文時代文化研究会（分担協力）

平成 27 年7月

市川健夫編『特別展図録 2015 漆と縄文人』八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

平成 27 年10月

宇部則保、村木 淳、杉山陽亮 「青森県八戸市の縄文時代早期貝塚出土試料の 14C 年代と海洋リザーバー効果」『第四紀研究』54-5 第四紀学会（連名）

小久保拓也編『秋季企画展図録 小川原湖周辺の縄文文化』八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

平成 27 年11月

船場昌子 「八戸城跡」『八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 平成 27 年度 遺跡調査報告会 資料集』

横山寛剛 「八幡遺跡」同上

苧坪祐樹 「田面木遺跡」同上

西村広経 「重地遺跡」同上

平成 27 年12月

宇部則保 「北縁の蝦夷社会」『東北の古代史③ 蝦夷と城柵の時代』吉川弘文館

苧坪祐樹 「田面木遺跡」『平成 27 年度 青森県埋蔵文化財発掘調査報告会 資料集』

西村広経 「重地遺跡」同上

平成 28 年3月

西村広経 「東北地方の異形台付土器」『研究紀要』5 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

西村広経 「東カマド」熊木俊朗編『擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動』東京大学大学院人文社会系研究科付属北海文化研究常呂実習施設

【学会発表等】

平成 27 年8月

宇部則保 「遺跡からみえる古代の暮らし」『八戸市立根岸公民館 市民学校 歴史講座』

平成 27 年9月

市川健夫 「是川中居遺跡の漆製品」『国立歴史民俗博物館共同研究「学際的研究による漆文化史の新構築」第 10 回研究会』

平成 27 年10月

宇部則保 「八戸地方の古代社会」『第 5 回八戸市史講座』

杉山陽亮 「長七谷地貝塚・是川石器時代遺跡」『北海道・北東北の縄文遺跡群』世界遺産登録推進フォーラム』

西村広経 「八戸地域における縄文／弥生移行期の様相」『科学研究費補助金基盤研究 (A) 「植物・土器・人骨の分析を中心とした日本列島農耕文化複合の形成に関する基礎的研究」研究会』

平成 27 年11月

小久保拓也 「縄文の祈り・見えないものに何を託したのだろうか」『八戸ポータルミュージアム はっち市 2015 ちっちゃな街のまなび舎 - 見えるもの 見えないもの / mono & mana-』

船場昌子 「八戸城跡」『八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 平成 27 年度 遺跡調査報告会』

横山寛剛 「八幡遺跡」同上

苧坪祐樹 「田面木遺跡」同上

西村広経 「重地遺跡」同上

平成 27 年12月

宇部則保 「蝦夷社会の様相 ～八戸地方を中心として～」『第 4 回閉伊地方の蝦夷 古代三陸の昆布 1,300 年記念シンポジウム』

宇部則保 「八戸地域の古代集落の動態」『公開研究会 八戸の集落一万年 vol.3』

市川健夫 「縄文文化の粋 - 是川遺跡 -」『盛岡市西部公民館 縄文講座 - 岩手県北と青森県南東部の縄文文化 -』

苧坪祐樹 「田面木遺跡」『平成 27 年度 青森県埋蔵文化財発掘調査報告会』

西村広経 「重地遺跡」同上

平成 28 年2月

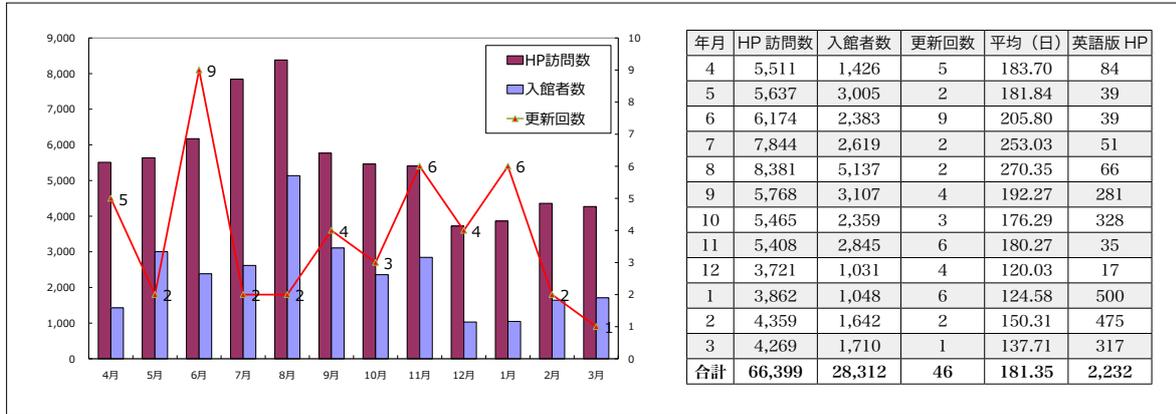
宇部則保 「八戸地方の古代社会」『第 5 回 二戸市埋蔵文化財センター発掘調査報告会』

9. 広報・情報発信

館事業の広報および情報発信事業を下記のとおり行った。

① ホームページ

インターネットを利用した広報・情報発信としてホームページを開設している。各職員によるコンテンツの更新が簡便にできるよう、CMSを使用し、管理を外部委託している。今年度はスマートフォンなどに対応するリニューアルを行った。ホームページ訪問者数は前年より微増し、1日あたりの平均訪問者数は181.3人（平成27年4月～平成28年3月まで）であった。



ホームページ訪問者数と更新回数

② 広報はちのへ「いのるん通信」

是川縄文館の体験学習や発掘調査などの活動について、参加者にインタビューし、内容を紹介します。市広報において隔月連載（5・7・9・11・1・3月号）。97,800部発行



いのるん通信（第15回）

③ 広告掲載

特別展および秋季企画展開催を周知するため、地元新聞に広告を掲載した。

- ・特別展開催案内広告「漆と縄文人」
デーリー東北新聞社（7/16,17,31 朝刊）、東奥日報社、岩手日報社、秋田魁新報社（7/17 朝刊）、情報羅針盤コンパス（7/2 発行）
- ・企画展開催案内広告「小川原湖周辺の縄文文化」
デーリー東北新聞社（10/7,16 朝刊）、北海道新聞道南版（10/14 朝刊）、東奥日報社、岩手日報社、秋田魁新報社（10/3 朝刊）、情報羅針盤コンパス（9/10 発行）



特別展連載記事（デーリー東北新聞）

④ 新聞連載記事

企画展・特別展をテーマとした記事を職員が作成し、開催期間に合わせてデーリー東北新聞に掲載した。（特別展7/21,28、8/4,11）

⑤ B e F M 「施設ガイド」

地元コミュニティラジオの施設ガイドで、是川縄文館のイベント情報等について紹介（3ヶ月に1度）。

⑥ 図録等刊行

研究紀要のほか、企画展示について下記の図録を刊行した。図録については館内ミュージアムショップで頒布している。

「掘り day はちのへー八戸市埋蔵文化財ニュース」18号 A4版カラー

特別展図録「漆と縄文人」A4版カラー

企画展図録「小川原湖周辺の縄文文化」A4版カラー
是川縄文館「研究紀要」第5号 A4版モノクロ

⑦ その他

○映画「ライアの祈り」 2015 ライアの祈り製作委員会 平成27年6月全国公開。平成26年7月に、是川縄文館、発掘調査現場などでの撮影に協力した。

○ドラマ「制服捜査2」TBS 平成28年2月1日放送。平成27年6月に、是川縄文館（本館・分館）での撮影に協力した。

○テレビ番組「アジア巨大遺跡 第4集 縄文奇跡の大集落～1万年持続の秘密～」NHK 平成27年11月8日放送。平成27年3月下旬に、是川遺跡出土品の4K撮影についての協力を行った。

○「八郎丸」いのるん

是川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」の商品（クッキー容器）の展開活用。ラグビー日本代表の五郎丸歩選手のポーズが当館マスコットキャラクターと類似していることから、同商品をラグビーのユニフォーム風にカラーリングし「八郎丸」と名付け、当館限定で販売した。新聞社やテレビ局・ラジオ局から多くの取材があった。



特別展図録「漆と縄文人」



「八郎丸」いのるん

10. ミュージアムショップ・喫茶コーナー「これカフェ」

「これカフェ」の運営は、八戸縄文保存協会が運営している。

①ミュージアムショップ

国宝「合掌土偶」をデザインしたグッズ、アクセサリー、お菓子のほか、縄文時代をテーマとしたグッズ等を多数販売している。また、一般書店では販売していない当館の常設展示図録や特別展等の図録なども販売している。

【商品一例】ポストカード、マグカップ、キーホルダー、ストラップ、Tシャツ、当館キャラクター「いのるん」グッズ（文房具、ラグビージャージ着用風貯金箱など）、土偶及び土器などのレプリカ、お菓子（クッキー、人形焼、せんべいなど）、当館刊行物、考古学関連書籍等。

②喫茶コーナー

古代米を使用した「縄文カレー」や縄文時代に食されていたと考えられるドングリを使用した「縄

文らーめん」のほか、クルミ、ナッツ、ドングリを合わせた「縄文ソフトクリーム」などを提供している。



ミュージアムショップ

IV 埋蔵文化財調査等

1. 発掘調査事業概要

八戸市には、489箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡）が存在する。遺跡内で開発行為を行う場合、文化財保護法93条（国又は地方公共団体等が開発主体の場合、同94条）が適用され、事前に八戸市教育委員会社会教育課と協議のうえ、工事着手の60日前までに遺跡内の工事に係る届出（通知）書の提出が必要となる。受理された届出により、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館では、まず遺跡の現状を把握し、必要に応じて試掘調査を行う。試掘調査の結果、開発行為により遺跡が破壊されると判断した場合、本発掘調査により遺跡を記録保存するなどの保護処置をとっている。

また、開発行為が行われる対象地が遺跡の範囲外であっても、遺跡に隣接する場合または掘削が広範囲に及ぶ場合は文化財保護法99条に基づき、遺跡の範囲確認のための試掘調査（範囲確認調査）を行う場合がある。調査の結果、開発対象地で遺構・遺物が発見された場合、遺跡の範囲変更または新規の遺跡登録を行っている。

ただし、開発行為による掘削範囲が狭小であり、地下への影響が軽微であると判断される場合、事前の試掘調査を行わず、工事立会で対応する場合がある。

八戸市内には長七谷地貝塚・是川石器時代遺跡・丹後平古墳群・根城跡の4か所の国指定史跡がある。開発行為がこれら指定地内で行われる場合、事前に八戸市教育委員会社会教育課と協議のうえ、現状変更等許可申請書の提出が必要となる。申請を受け、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館では、開発行為による史跡指定地の地下遺構への影響を判断するため、遺構の有無や遺構検出面までの堆積状況を確認する確認調査を行っている。なお、史跡指定地内においては軽微な開発行為であっても、現状変更等許可申請書の提出が必要となる。

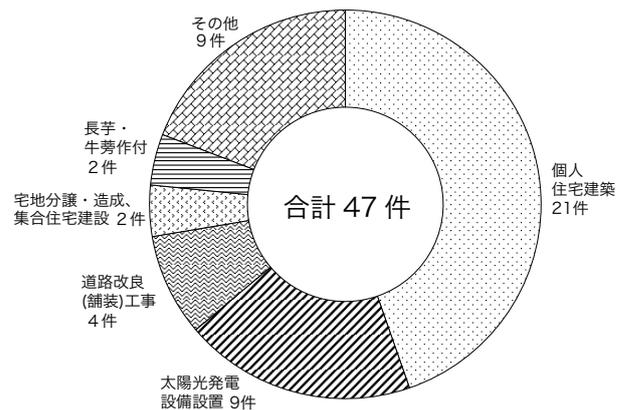
(1) 平成27年度の発掘調査

平成27年度は、32か所の遺跡で計45件の発掘調査を実施した。調査種類の内訳は試掘調査34件、史跡現状変更判断に伴う確認調査2件、本発掘調査8件（試掘後の本調査を含む）、工事立会中の発掘調査1件である。

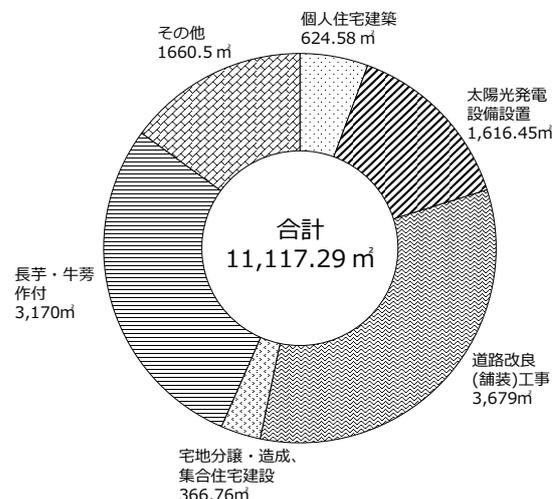
調査原因の種類別では、個人住宅建築21件、太陽光発電施設建設9件、道路改良（舗装）工事4件、集合住宅建築2件、長芋・牛蒡作付2件、範囲確認調査2件、その他駐車場整備・擁壁設置3件、

児童福祉施設建築・下水道整備・神社建築・自然崩落による調査が各1件である。

発掘調査の件数は、個人住宅建築に伴う件数が最も多い。次いで太陽光発電設備設置による件数が多く、個人住宅と合わせて全体の6割に及ぶ。調査面積では、道路改良（舗装）工事が最も多いが、これは県道沼館三日町線整備に伴う八戸城跡の本発掘調査による。これに次ぐのが長芋・牛蒡作付による調査面積であるが、これは平成26年度より継続して行われている田面木遺跡に加え、重地遺跡の発掘調査が行われたためである。



平成27年度調査原因ごとの発掘件数内訳



平成27年度調査原因ごとの調査面積内訳

(2) 過年度との比較

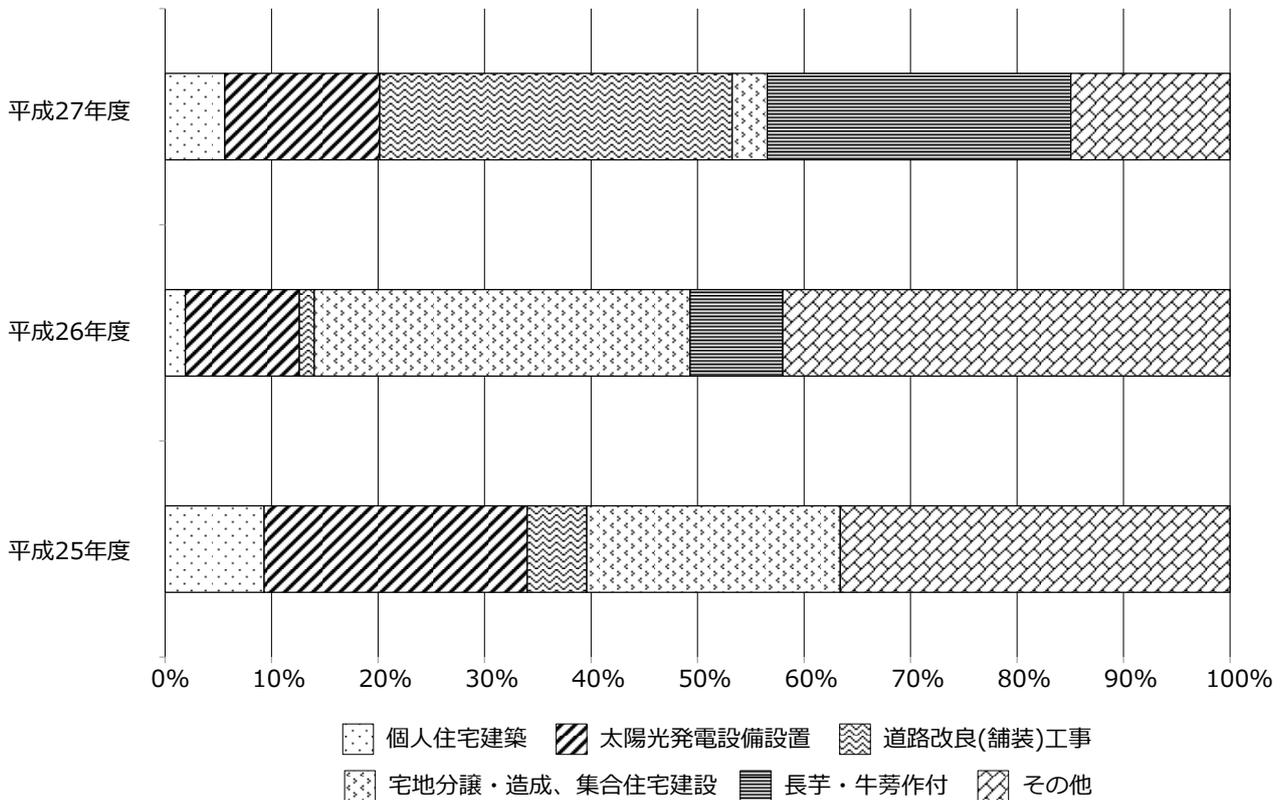
過去2年間と比較すると、届出数・遺跡数は横ばいだが、調査面積は平成27年度に減少している。これは宅地分譲・造成、集合住宅建築など大規模な調査面積を対象とする事業が試掘調査で終了し、本発掘調査が必要ないと判断したためである。このため、潜在的には前年度並みの調査面積となった可能性があり、市内における遺跡に係る開発行為が必ずしも減少傾向にあるわけではない。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
届出数	54	48	48
遺跡数	28	27	33
調査面積 (㎡)	14,762.07	14,991.25	11,117.29

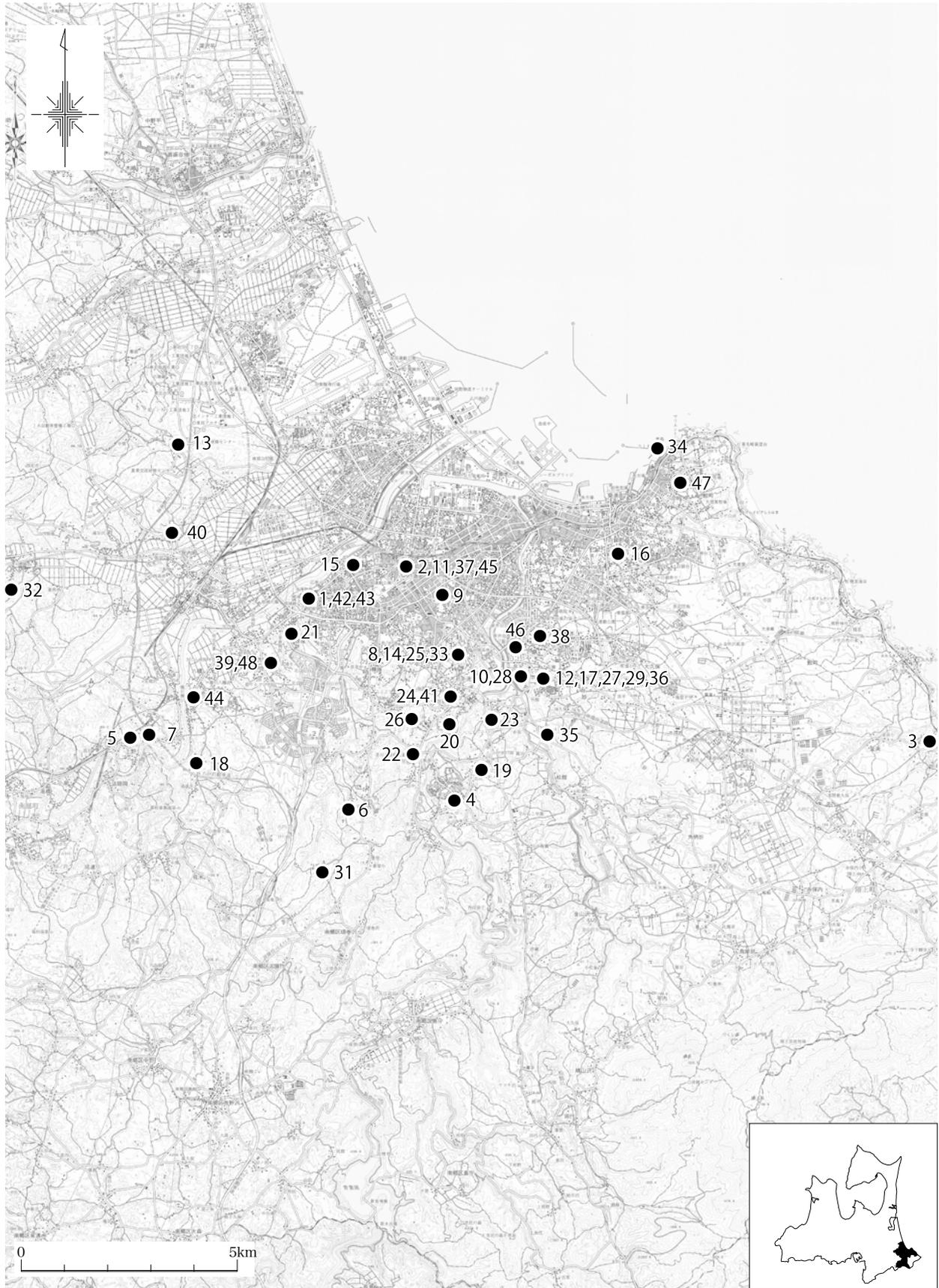
平成25～27年度の届出件数及び調査面積

調査原因	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)
個人住宅建築	26	1304.92	15	294.75	21	624.58
太陽光発電設備設置	3	3604.00	8	1610.50	9	1616.45
道路改良(舗装)工事	4	822.00	5	192.30	4	3679.00
宅地分譲・造成、集合住宅	4	3431.50	8	5308.50	2	366.76
長芋・牛蒡作付	0	0.00	2	1270.00	2	3170.00
その他	17	5599.65	10	6315.20	9	1660.50
合計	54	14,762.07	48	14,991.25	47	11,117.29

平成25～27年度の調査原因件数と調査面積の内訳



平成25～27年度の調査原因ごとの調査面積の推移



平成 27 年度八戸市内発掘調査位置図 (S : 13 万分の 1)

No.	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	種別 / 主な時代
1	史跡根城跡	試掘調査	道路舗装工事及び水道整備	平成 27 年 4 月 21・24 日	19	城館跡 / 縄文・飛鳥・奈良・平安・中世
2	八戸城跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 4 月 27 日～5 月 1 日	62.4	城館跡 / 縄文・弥生・古墳・近世・近代
3	前川目遺跡	試掘調査	個人住宅増築	平成 27 年 5 月 2 日	7.5	散布地 / 縄文
4	寺の上遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 27 年 5 月 12・13 日	30	散布地 / 縄文
5	沢ノ上遺跡第 1 地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 27 年 5 月 14～18 日	64.7	集落跡 / 弥生・奈良・平安
6	天狗沢遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 5 月 29 日～6 月 1 日	4.58	散布地 / 縄文・平安
7	上野遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 6 月 16 日	20	集落跡 / 縄文・平安・中世・近世
8	雷遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 6 月 16・17 日	24	散布地 / 縄文・平安
9	古玄中寺遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 6 月 23 日	10.25	散布地 / 縄文
10	館平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 6 月 25 日	42	集落跡・城館跡 / 縄文・平安・中世
11	八戸城跡	試掘調査	駐車場整備工事	平成 27 年 6 月 26 日～7 月 1 日	45.9	城館跡 / 縄文・弥生・古墳・近世・近代
12	市子林遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 7 月 8 日	24	集落跡 / 縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
13	前堀 (1) 遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 27 年 7 月 29・30 日	140	散布地 / 縄文・平安
14	雷遺跡第 2 地点	工事立会	擁壁設置工事	平成 27 年 7 月 31 日、8 月 3 日	60	散布地 / 縄文・平安
15	熊野堂遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 8 月 17 日	3	集落跡 / 縄文・奈良・平安
16	沢目遺跡第 1 地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 27 年 8 月 19・20 日	111.5	散布地 / 縄文
17	市子林遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 8 月 21 日	14	集落跡 / 縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
18	櫛引遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 8 月 24 日	24	集落跡・城館跡 / 縄文・奈良・平安・中世・近世
19	上ノ沢遺跡	試掘調査	児童福祉施設建築	平成 27 年 8 月 26 日	68	散布地 / 縄文・奈良・平安
20	石手洗遺跡	試掘調査	範囲確認調査	平成 27 年 8 月 27 日～31 日	51.5	集落跡 / 縄文
21	松長根遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 9 月 15 日	4	散布地 / 縄文
22	中居遺跡 R 区	試掘調査	範囲確認調査	平成 27 年 9 月 17・25 日	8	集落跡 / 縄文
23	松ヶ崎遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 27 年 10 月 16・20 日	120	集落跡・貝塚 / 縄文・奈良・平安
24	駒ヶ沢遺跡第 2 地点	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 10 月 16 日	38	集落跡 / 縄文
25	雷遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 10 月 19 日	8	散布地 / 縄文・平安
26	新田遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 27 年 10 月 21～30 日	800	集落跡 / 縄文・奈良
27	市子林遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 10 月 29 日	8	集落跡 / 縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
28	館平遺跡②	試掘調査	道路舗装工事	平成 27 年 11 月 2 日	60	集落跡・城館跡 / 縄文・平安・中世
29	市子林遺跡第 21 地点	試掘調査	共同住宅建築	平成 27 年 11 月 4～6 日、11～13 日	225	集落跡 / 縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
30	土橋遺跡①	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 27 年 11 月 18・19 日	46.5	散布地 / 縄文
31	土橋遺跡②	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 27 年 12 月 10 日	65.75	散布地 / 縄文
32	咽平遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 27 年 12 月 16 日	8	散布地 / 縄文・奈良・平安
33	雷遺跡③	試掘調査	集合住宅建築	平成 28 年 3 月 2～5 日	141.76	散布地 / 縄文・平安
34	蕪島遺跡	試掘調査	神社建築	平成 28 年 3 月 8～11 日	52.5	散布地 / 縄文・弥生
35	細越遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 28 年 3 月 23～27 日	18	散布地 / 奈良・平安
36	市子林遺跡第 20 地点	本調査	個人住宅建築	平成 27 年 4 月 27 日～5 月 1 日	26.5	集落跡 / 縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
37	八戸城跡第 34 地点	本調査	個人住宅建築	平成 27 年 5 月 18 日～6 月 9 日	280	城館跡 / 縄文・弥生・古墳・近世・近代
38	重地遺跡第 6 地点	本調査	長芋・牛蒡作付	平成 27 年 5 月 12 日～6 月 30 日	900	集落跡 / 縄文
39	田面木遺跡第 47 地点	本調査	長芋・牛蒡作付	平成 27 年 7 月 1 日～10 月 30 日	1,170	集落跡 / 縄文・弥生・奈良・平安
40	林ノ前遺跡	本調査	自然崩壊	平成 27 年 9 月 1 日～10 月 30 日	357	集落跡 / 縄文・平安・中世・近世
41	駒ヶ沢遺跡第 2 地点	本調査	個人住宅建築	平成 27 年 10 月 16・28 日	38.75	集落跡 / 縄文
42	根城跡岡前館第 63 地点	確認調査	個人住宅建築	平成 27 年 4 月 23・24 日	60	城館跡 / 縄文・飛鳥・奈良・平安・中世
43	根城跡岡前館第 64 地点	確認調査	駐車場整備及び擁壁設置	平成 27 年 8 月 6・20 日	63.63	城館跡 / 縄文・飛鳥・奈良・平安・中世
44	八幡遺跡第 7 地点	本調査	公民館建替	平成 27 年 4 月 13 日～6 月 30 日	930	集落跡・社寺跡 / 縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世
45	八戸城跡	本調査	県道沼館三日町線整備	平成 27 年 6 月 17 日～10 月 31 日	3,300	城館跡 / 縄文・弥生・古墳・近世・近代
46	新井田古館遺跡第 30 地点	本調査	太陽光発電設備設置	平成 27 年 7 月 13 日～8 月 17 日	238	集落跡・城館跡 / 縄文・奈良・平安・中世・近世
47	継久保遺跡	本調査	下水道	平成 27 年 11 月 24 日～11 月 27 日	24	散布地 / 縄文
48	田面木遺跡第 48 地点	本調査	道路舗装工事	平成 27 年 11 月 17 日～12 月 11 日	300	集落跡 / 縄文・弥生・奈良・平安

平成 27 年度八戸市内遺跡発掘調査一覧

2. 調査概要

①主な試掘調査

(1) 沢ノ上遺跡 第1地点 (p25-No.5)

調査地：八戸市大字上野字沢ノ上15-6地内

担当職員：苧坪 祐樹

検出遺構：竪穴住居跡1棟

出土遺物：土師器・土製品（土製紡錘車）

調査概要：試掘調査中に性格不明の遺構を検出した。性格確認のための精査を行ったところ、古代の竪穴住居跡であることがわかった。出土遺物から飛鳥～奈良時代に属するとみられる。



沢ノ上遺跡 1トレンチ (南から)

(2) 中居遺跡 R区 (p25-No22)

調査地：八戸市大字是川字中居地内

担当職員：横山 寛剛

検出遺構：ピット

出土遺物：縄文土器・石器

調査概要：是川考古館、八戸市歴史民俗資料館、管理棟、八戸市縄文学習館の4施設周辺の保護・活用のため、内容確認の試掘調査を実施した。調査の結果、4施設周辺には地山や縄文時代の遺構検出面である黒色土を検出し、建物による地下への影響が限定的であることを確認した。



中居遺跡 調査地点位置図

(3) 蕪島遺跡 (p25-No34)

調査地：八戸市大字鮫町字鮫56-2

担当職員：村木 淳

検出遺構：竪穴住居跡

出土遺物：縄文土器、弥生土器、続縄文土器、石器

調査概要：蕪島神社の再建に伴い、建築予定範囲の試掘調査を行った。調査の結果、現地表面から90～180cmで縄文時代早期中葉とみられる竪穴住居跡1棟と早期後葉の竪穴住居跡1棟を検出した。また、縄文時代早期とみられる石錘が多数出土した。再建予定の建物の基礎は、縄文時代の遺物包含層まで達しないため、調査を終了した。

②本発掘調査

(4) 市子林遺跡 第20地点 (p25-No.36)

調査地：八戸市大字妙字坂中44-20及び44-9の一部

担当職員：西村 広経

検出遺構：竪穴住居跡1棟

出土遺物：土師器・須恵器・鉄製品（鉄鋤・鉄鎌）

調査概要：個人住宅建築に伴い竪穴住居跡1棟の本発掘調査を行った。出土遺物から、平安時代(9世紀後半)に属するとみられる。



市子林遺跡 竪穴住居跡 (南から)

(5) 田面木遺跡第48地点 (p25-No.48)

調査地：八戸市大字田面木字上野道下夕地内

担当職員：西村 広経

検出遺構：竪穴住居跡7棟、土坑4基、溝状土坑1基、溝跡2条、円形周溝1基

出土遺物：土師器、須恵器、石器

調査概要：道路改良に伴う本発掘調査を実施した。調査区中央を横断する攪乱があり、遺構の残存状況はあまり良くないが、竪穴住居跡、土坑などを検出した。竪穴住居跡は出土遺物や火山灰の検出状況から、奈良～平安時代に帰属するものと考えられる。



田面木遺跡 竪穴住居跡完掘状況

(6) 巻久保遺跡 (p25-No.47)

調査地：八戸市大字鮫町字巻久保 23-9 地先より 23-7 地先まで

担当職員：苧坪 祐樹

検出遺構：溝跡1条

出土遺物：縄文土器

調査概要：下水道建設に伴い、9月に試掘調査を行い、遺構と遺物が検出されたため、11月24日から27日まで本発掘調査を実施した。検出した遺構は溝跡1条で、遺物は縄文土器が溝跡から出土した。



巻久保遺跡 溝跡

(7) 林ノ前遺跡 (p25-No.40)

調査地：八戸市大字尻内町字熊ノ沢地内

担当職員：西村 広経

検出遺構：竪穴遺構4棟、土坑23基

出土遺物：縄文土器、土師器、石器

調査概要：自然崩壊に伴う発掘調査を平成13年度以降継続している。未調査範囲のうち、遺構が残存する範囲を特定するため、28ヶ所にトレンチを設定し調査した。その結果、遺構が残存する範囲は約300㎡に絞られることが明らかになった。平成27年度はそのうち約100㎡を調査し、竪穴遺構4棟、土坑23基を検出した。平成28年度に引き続き調査を行う予定である。



林ノ前遺跡 調査区完掘(西から)

(8) 重地遺跡第6地点 (p25-No.38)

調査地：八戸市大字新井田字寺ノ上 33-1・33-2・33-3・33-4

担当職員：西村 広経

検出遺構：竪穴住居跡 11 棟、土坑 35 基

出土遺物：縄文土器、石器

調査概要：

①遺跡の概要

重地遺跡は八戸市庁から南東に 3.5km ほどの新井田地区に位置する。新井田川を西に臨む、標高 20～42m ほどの段丘上に立地し、縄文時代の集落跡として知られている。平成 13 年度の八戸市教育委員会による第 1 地点の調査では、縄文時代前期～後期の竪穴住居跡や土坑、土器埋設遺構などを多数検出しており、長期間にわたって利用された遺跡であることが確認されている。

②調査に至る経緯

長芋・牛蒡の作付けに伴い、平成 26 年 11 月 12 日付で文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく届出が提出された。届出を受けて平成 26 年 12 月 3 日・4 日に試掘調査を実施したところ届出地北側で遺構が確認された。地権者との協議の結果、作付けに先立ち本発掘調査を実施することで合意した。合意に基づき、平成 27 年 5 月 8 日～6 月 30 日に、試掘調査で遺構の分布が確認されていた約 900㎡を対象に本発掘調査を実施した。

③検出遺構

【竪穴住居跡】平面形は円形や方形などバリエーションがある。大きさは小さいもので約 2.2m、最大のもので 8m 以上と幅がある。また、調査区東側で検出した SI37 竪穴住居跡を除く 10 棟が調査区北西部に位置し、同じ場所に幾度も住居を構築していたことがわかった。出土遺物から、これらの竪穴住居跡は縄文時代前期後半のものと考えられる。

【土坑】平面形は円形ないし楕円形で、最大規模のものは直径約 2.6m、深さ約 1.5m を測る。上部が削りとられて底に近い部分のみ残存する土坑も多く、機能時には更に深かったものと考えられる。底より口が狭いフラスコ状土坑を多数検出した。土坑の底面近くで、完形の土器がいくつもまとまって出土した事例がある。また、土坑のほとんどが人為的に埋め戻されていることから、それらの土器は土坑を埋め戻す過程で意図的に投げ込まれたものと考えられる。

④出土遺物

竪穴住居跡や土坑からは多量の縄文土器や石器が出土した。縄文土器は全て円筒土器と呼ばれるタイプで、細長い筒状の器形を特徴とする。今回出土した土器は全て円筒下層 c～d 式の範疇でとらえるものであり、縄文時代前期後半に位置付けられる。

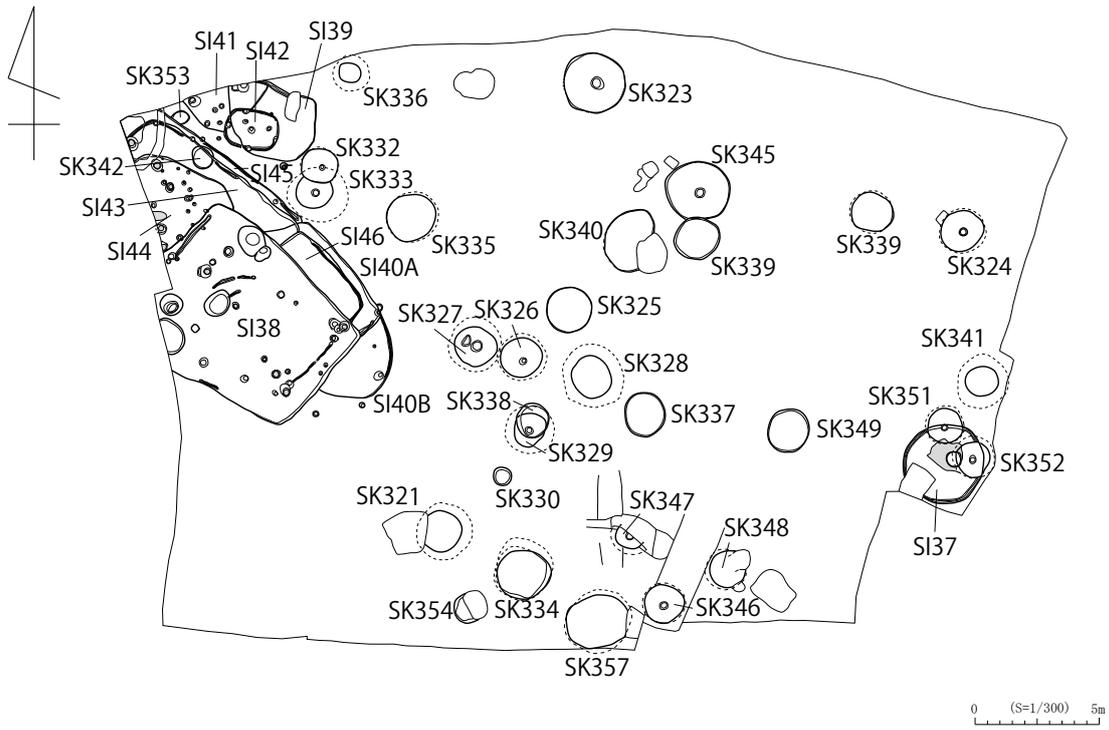
石器には石鏃、石匙、尖頭器、石斧、磨石、敲石、半円状扁平打製石器などがある。

⑤調査成果

今回の調査で確認された遺構・遺物は概ね縄文時代前期後半に位置付けられ、明確に他時期に位置付けられる遺構・遺物は全くない。沢跡を挟んで近接する第 1 地点は前期～後期に至るまで長期間利用されており、様相が異なる。中期以降に居住域としての利用範囲が縮小するなど、空間利用のあり方に変化があったものと考えられる。

出土土器は土坑出土のものを中心として、一括性の高い良好な資料が得られている。とりわけ SK333 土坑では底面および埋土中から少なくとも 10 個体以上の完形ないし完形に近い土器が出土しているが、型式学的にも円筒下層 c 式を著しく逸脱する土器は認められない。

以上のことから、本地点の利用期間は縄文時代前期後半に限定され、当該期の集落の様相を端的に示す事例と評価できる。



重地遺跡 第6地点遺構配置図



調査区完掘 (南から)



SI38 竪穴住居跡



SK333 土坑 土器出土状況



SK333 土坑 出土遺物

(9) 田面木遺跡第 47 地点 (p25-No.39)

調査地：八戸市大字田面木字山道下タ 28-1 の一部・28-2 の一部

担当職員：苧坪 祐樹

検出遺構：竪穴住居跡 16 棟、竪穴遺構 18 棟、土坑 8 基、炉跡 2 基

出土遺物：土師器、須恵器、土製品、石製品、鉄製品

調査概要：

①遺跡の概要

田面木遺跡は八戸市田面木地区に所在し、馬淵川右岸の標高 25～50 m の丘陵地に位置する。遺跡は東西約 400 m、南北約 800 m の規模を有する。宅地化が急速に進んだ昭和 62(1987) 年以降に、開発に伴う発掘調査を断続的に行っており、これまでの調査により縄文時代から古代までの遺構・遺物が多数検出されている。

②調査に至る経緯

調査対象地は遺跡の北西側に位置し、調査原因は長芋・牛蒡作付けに伴うものである。平成 25 年度に試掘調査を実施し、古代の遺構・遺物を多数確認したことから、届出者と協議し、平成 26 年度より複数年での本調査を実施しており、本地点は 2ヶ年目となる。全調査対象面積は 5,890㎡で、平成 26 年度：第 43 地点は 1,100㎡、平成 27 年度：第 47 地点は 1,170㎡の本調査を実施した。調査期間は平成 27 年 7 月 1 日～10 月 30 日である。1ヶ年目となる平成 26 年度：43 地点では主に奈良・平安時代の集落跡を検出した。なお、平成 28 年度は 800㎡の本調査を予定し、平成 29 年度以降も順次本調査を実施するものである。

③検出遺構

飛鳥時代の竪穴住居跡 1 棟、奈良時代の竪穴住居跡 3 棟、平安時代の竪穴住居跡 12 棟・竪穴遺構 18 棟、土坑 8 基、炉跡 2 基を検出した。

なお、平面が方形基調で一辺 2 m 超の遺構の内、カマドをもつものを竪穴住居跡、もたないものを竪穴遺構とした。

④出土遺物

遺物は、土師器、須恵器、土製品（紡錘車・鞆の羽口・勾玉・土玉）、石製品（砥石・勾玉・管玉）、鉄製品（刀子・鋤鍬先・鎌・手鎌・鉄鎌・錫杖状鉄製品）等が出土している。

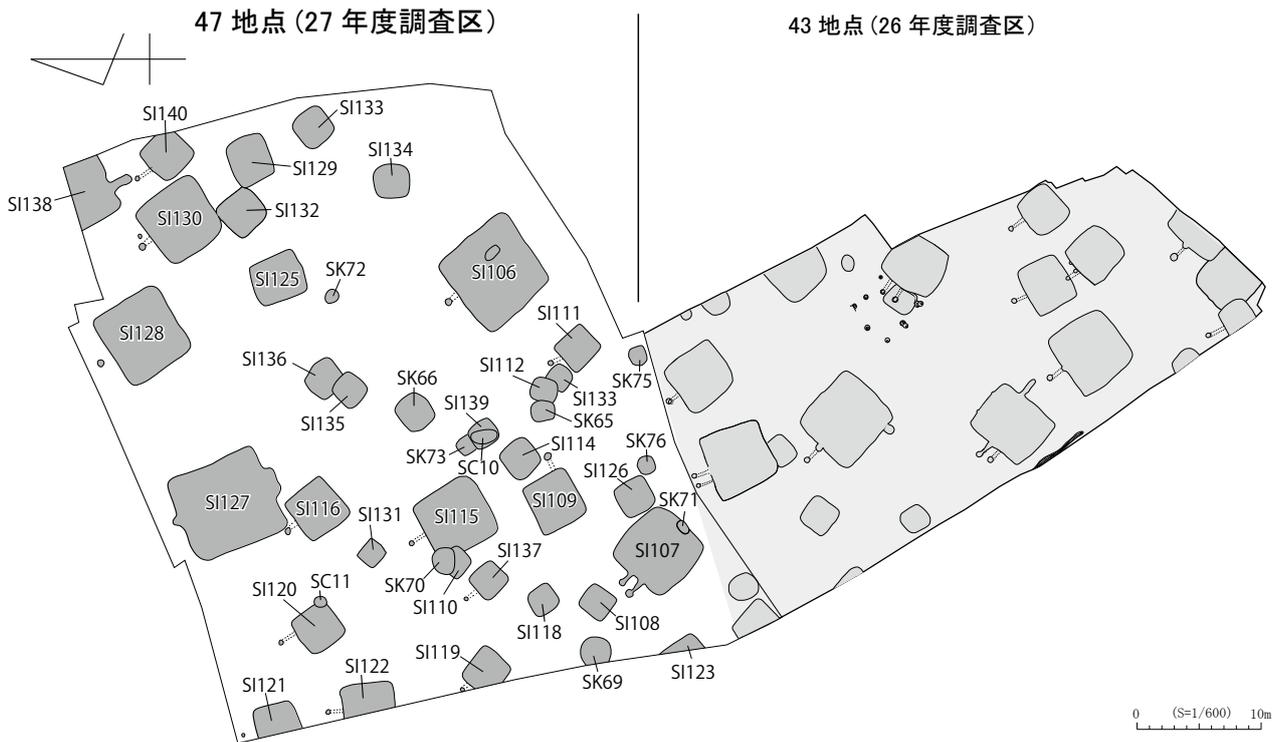
⑤調査成果

多数検出した竪穴住居跡の帰属時期について整理すると、調査地点周辺では集落が飛鳥時代から始まっていること、またそこから奈良時代にかけてその数を増やし、平安時代に飛躍的に集落を大規模化していることがわかった。

また平安時代の竪穴住居跡から出土した「墨書土器（銘：方人）」は 2 字以上の書であるが、青森県内では 1 字や記号のような墨書土器の出土が多いため、希少な事例である。また、この「方人」と墨書された高台付坏は限定された一つの竪穴住居跡のカマド付近から 4 点集中して出土している。他の竪穴住居跡ではみられない出土状況であることから、何らかの特異性をもつ竪穴住居跡だと考えられる。



墨書土器出土状況：竪穴住居跡カマド



田面木遺跡第43・47地点 遺構配置図

IV 埋蔵文化財調査等



墨書土器 (銘：方人)：破片資料



墨書土器 (銘：方人)：破片資料

(10) 八幡遺跡第7地点 (p25-No.44)

調査地：八戸市大字八幡字館ノ下、字八幡丁

担当職員：横山 寛剛

検出遺構：竪穴住居跡 14 棟、竪穴建物跡 1 棟、土坑墓 1 基、土坑 27 基、溝跡 3 条

出土遺物：縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品、石製品、鉄製品、銭貨、動物遺存体

調査概要：

①遺跡の概要

八幡遺跡は八戸市大字八幡字館ノ下、字八幡丁に所在し、八戸市の中心部から南西へ約 5.5km に位置する。馬淵川右岸の東から西に向かって傾斜する、標高 6～20 m の低位段丘上に立地する。遺跡範囲の現況は、大半を明治小学校の敷地が占め、その他の場所は宅地・墓地となっている。これまでの調査により、縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の各時代の遺構・遺物が多数検出される複合遺跡であることがわかっている。

②調査に至る経緯

調査地点は八戸市立館公民館の所在地である。平成 26 (2014) 年に館公民館の建替えに伴い、八幡遺跡の隣接地として試掘調査が実施された。試掘調査の結果、古代の竪穴住居跡や遺物が多数検出され、本地点が八幡遺跡と一連の遺跡であることが判明した。このため同年に青森県教育委員会に届出し、遺跡の範囲変更が通知され、本地点が八幡遺跡の範囲に含まれることとなった。調査期間は平成 27 年 4 月 13 日から 6 月 30 日で、調査面積は 930㎡である。

③検出遺構

竪穴住居跡 13 棟が検出され、奈良時代の竪穴住居跡 1 棟、平安時代の竪穴住居跡 8 棟、時期不明の竪穴住居跡が 4 棟である。検出した竪穴住居跡の大きさは 6～8 m で隅丸方形～長方形を呈し、その一辺にカマドが設けられている。平安時代の竪穴住居跡はカマドの向きが北東・東・南のものがあり、お互いが重なり合った状況で検出されている。そのほか、平安時代以降の竪穴建物跡 1 棟、縄文時代の土坑墓 1 基・土坑 6 期、時期不明の土坑 21 基、平安時代以降とみられる溝跡 3 条、ピットなど多数の遺構を検出した。溝跡のうち 1 条は幅約 1 m、検出した全長で約 34 m あり、調査区中央を南北に走る。この溝は調査区外に延びるとみられる。

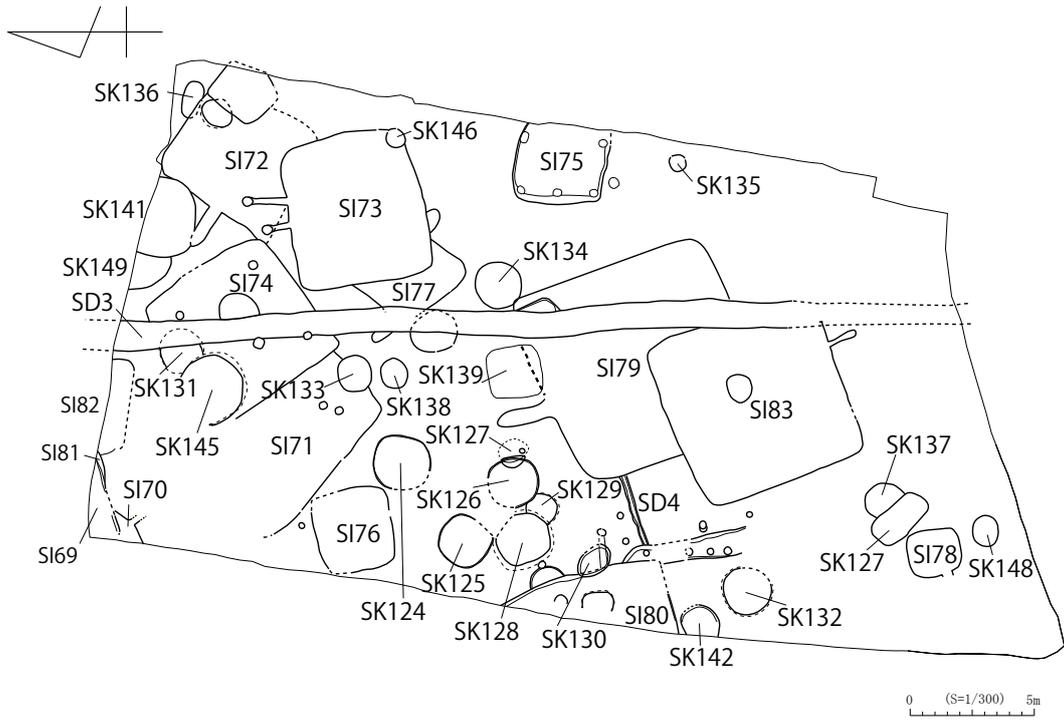
④出土遺物

縄文時代晩期の土器が多数出土している。おそらく本地点に遺物包含層が形成されていたと思われるが、古代以降の遺構により掘削されたものが竪穴住居跡の埋土から出土している。また縄文時代の土製品 (土偶)・石器も出土している。古代の遺物には土師器 (坏・甕)・須恵器 (甕)・灰釉陶器・土製支脚・鉄製品 (鉄鎌・刀子・鉄製紡錘車など)、銭貨 (紹聖元寶・元豊通寶)、動物遺存体 (貝・ウシ) などがある。このうち灰釉陶器は双耳瓶とみられる破片で、平安時代に属する竪穴住居跡の床面直上から出土した。また、動物遺存体のうちウシの骨は、調査区中央を走る溝跡の埋土から検出した。

⑤調査成果

八幡遺跡のこれまでの調査により、奈良・平安時代の竪穴住居跡が約 50 棟発見されており、古代の大規模集落が営まれた拠点的な集落跡であったと考えられている。これらの住居の多くは、古い住居を壊して新しい住居を構築している。今回の調査で見つかった奈良・平安時代の竪穴住居跡も、同じ状況で検出されており、本地点がこれまでの調査で見つかった大規模集落の一部を成していたと考えられる。

調査区中央の溝は、平安時代の竪穴住居跡を壊しており、平安時代以降につくられたものとみられる。また、この溝跡と竪穴建物跡 (75 号竪穴建物跡) の軸方向が平行しており、2 つの遺構は同時期に存在していた可能性がある。竪穴建物は溝跡の東側に位置し、西側には平安時代以降とみられる建物跡はみつからない。溝跡と建物跡が同時期のものとするれば、溝跡は東側の建物跡がある領域と、その外側である西側とを区切る境界の役割があったと考えられる。



八幡遺跡第7地点遺構配置図



SI75 竪穴建物跡 (南から)



SI73 竪穴住居跡 (南から)



SD3 溝跡 (南から)

IV 埋蔵文化財調査等

(11) 八戸城跡 (p25-No.45)

調査地：八戸市内丸二丁目16-1外

担当職員：村木 淳・船場 昌子

検出遺構：溝状土坑21基、竪穴住居跡7棟、土坑26基、溝跡5条、掘立柱建物跡1棟、礎石建物跡1棟、
柵列4条、塀跡2条、性格不明遺構2基、柱穴多数

出土遺物：縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土製品、石製品、鉄製品、木製品

調査概要：

①遺跡の概要

八戸城跡は、八戸市内丸に所在する江戸時代の城跡を中心とする遺跡である。これまでの調査によって、縄文時代・弥生時代・奈良時代・平安時代・江戸時代の遺構・遺物が検出されている。八戸城は、寛永6年(1629)、盛岡藩の代官所として築城されたと伝えられ、寛文4年(1664)に八戸藩が成立した際に、藩主の居城・藩庁と定められた。その後、明治4年(1871)の廃藩置県によって廃城となり、取り壊されるまで、八戸藩二万石の居城として使用された。本丸(現在の三八城神社・三八城公園・八戸市公会堂等)と二の丸(八戸市庁・南部会館・靄神社等)から構成され、二ノ丸は法霊社(靄神社)・八幡宮・豊山寺といった社寺のほか、一族・重臣の屋敷地となっていた。

②調査に至る経緯

平成27年3月5日付けで、三八県民局から都市計画道路3・5・1号沼館三日町線整備工事に伴う八戸城跡発掘調査の届けが提出された。同年4月23日に委託者である三八県民局と協定を交わし、5月20日に契約を締結した。今年度の調査は、二ノ丸北側にあたる約3,300㎡で6月18日から10月31日まで調査を実施した。

③検出遺構

- 1区：外堀、しがらみ状遺構、柵列4条、柱穴
- 2区：竪穴住居跡3棟(古代)、土坑27基(古代：19・近世：8)、溝跡5条、陥し穴14基(縄文時代)、礎石建物跡1棟、性格不明遺構5基
- 3区：竪穴住居跡4棟(古代)、土坑13基(古代：5・近世：8)、溝跡5条、陥し穴12基(縄文時代)、掘立柱建物跡1棟、塀跡2条、性格不明遺構1基

④出土遺物

- 1区：陶磁器、木製品、杭131本
- 2区：土師器、陶磁器、銭貨、キセル、鉄製品
- 3区：土師器、陶磁器、銭貨、鉄製品

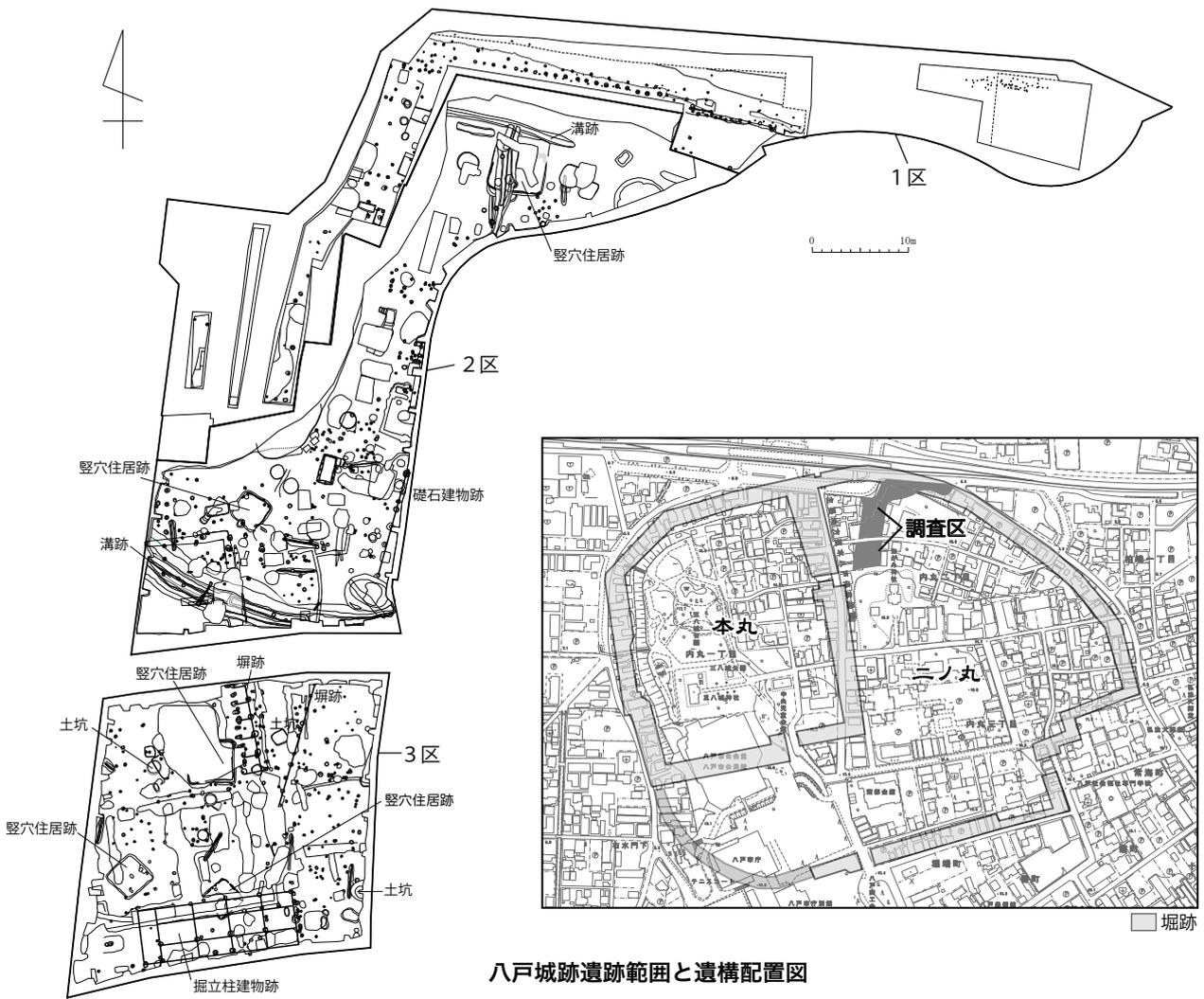
⑤調査成果

今回の調査では、八戸城外堀跡の深さや構築方法を確認することができた。初めて堀底を検出したことにより、現地表面から深さ4.5m、二ノ丸の屋敷地からの高低差が14～15mに及ぶことがわかった。また、堀の法面に粘土を貼って保護する工法も、今回の調査区で初めて確認された。粘土層は混入物が少ない均質な土で、堀普請にあたって非常に丁寧な工事が行われていたことが伺える。石垣を持たない土造りの城郭である八戸城がどのようにつくられ、維持されていたのかが分かる貴重な成果である。

また、堀跡からは江戸時代の陶磁器とともに、ものさし・下駄・漆塗の木製品・杭・柱材といった木製遺物が出土している。陶磁器は、17世紀中葉～後葉、18世紀前葉の肥前産磁器・陶器、明治以降の磁器・陶器などがある。これまで八戸城跡から出土した陶磁器は、18～19世紀の遺物が多く、17世紀代の遺物は希であった。17世紀中葉～後葉は、八戸藩が成立した時期にあたり、外堀がつくられた時期を探る大きな手がかりとなった。



2区溝跡：平安時代(北西から)



八戸城跡遺跡範囲と遺構配置図



3区竪穴住居跡：平安時代（北西から）



1区外堀検出状況：江戸時代（東から）



1区外堀の杭列としがらみ状遺構：近世（南から）

(12) 八戸城跡第 34 地点 (p25-No.37)

調査地：八戸市内丸三丁目 5 番 85

担当職員：苧坪 祐樹

検出遺構：竪穴住居跡 3 棟、掘立柱建物跡 7 棟、
竪穴建物跡 2 棟、土坑 2 基、溝跡 3 条、井戸跡
1 基、溝状土坑 4 基

出土遺物：土師器、陶磁器、土製品(土製紡錘車)、
鉄製品(鉄釘)、銅製品(煙管)、銭貨(永楽通宝・
寛永通宝)、獣骨(シカ)、貝(マガキ)

調査概要：個人住宅建築に伴い試掘調査を行った
結果、遺構・遺物が多数検出されたため、本発掘
調査を行った。竪穴住居跡は出土遺物から、飛鳥
～奈良時代に属するとみられる。

SI4 竪穴建物跡の灰・焼土・粘土が混じる埋土
から煙管や銭貨など墓に埋葬されるような遺物が出
土したが、人骨は検出されなかった。これらの遺物
には被熱した痕跡が認められるものもあるため、火
を焚く行為を伴う葬送儀礼が行われた痕跡と考
えられる。堆積状況から、埋め戻し土である 7 層
堆積後に形成された窪地が利用されたものとみら
れる。本遺構は出土遺物から 17 世紀以前に廃絶
されたものとみられる。

掘立柱建物跡の帰属年代は不明であるが、八戸
城内が描かれた絵図を参照すると、本地点の居住
者名は「八戸城圖」(明治 4 年(1871))において
中里安衛にあたる。絵図の位置からみて、今回検
出した掘立柱建物跡群の中には、中里安衛の居住
時期に構築された建物が含まれていることが想定
される。



※SB：掘立柱建物跡
SI：竪穴住居跡・竪穴建物跡
SK：土坑
SE：井戸跡
SD：溝跡
MP：溝状土坑

八戸城跡第 34 地点遺構配置

(13) 新井田古館第 30 地点 (p25-No.46)

調査地：八戸市大字新井田字古館 1-7

担当職員：西村 広経

検出遺構：竪穴建物跡 2 棟、土坑 11 基、土坑墓 1
基、溝状土坑 3 基、溝跡 1 条、井戸跡 1 基、土塁
跡 2 基、集石遺構 1 基、ピット多数

出土遺物：縄文土器、弥生土器、石器

調査概要：太陽光発電設備設置に伴う本発掘調査
を実施した。縄文時代早期～前期・後期、弥生時
代前半期、中近世の遺構・遺物を確認した。縄文
時代後期前葉の土坑では浅鉢形土器が出土した。
中近世の遺構としては竪穴建物跡を検出したほか、
溝跡・土塁跡は隣接する過去の調査区で検出され
た遺構と一連のものと思われる。



新井田古館遺跡 1 区完掘状況 (北西から)

3. 発掘調査報告書

平成27年度に実施された発掘調査の成果を埋蔵文化財調査報告書として計3冊を刊行した。

	書名	シリーズ名	シリーズ番号	編著者	発行年月日
1	八戸市内遺跡発掘調査報告書33 所収遺跡名：咽平遺跡第4地点、沢目遺跡第1地点、市子林遺跡第20地点、沢ノ上遺跡第1地点、中居遺跡R区、根城跡岡前館第63・64、雷遺跡第2地点、駒ヶ沢遺跡第2地点、地点八戸城跡第34地点	八戸市埋蔵文化財調査報告書	第152集	村木淳・横山寛剛・ 苧坪祐樹・西村広経	平成27年(2015) 3月25日
2	熊野堂遺跡第2地点 所収遺跡名：熊野堂遺跡第2地点	八戸市埋蔵文化財調査報告書	第153集	村木淳・苧坪祐樹	平成27年(2015) 3月29日
3	新井田古館遺跡第30地点 所収遺跡名：新井田古館遺跡第30地点	八戸市埋蔵文化財調査報告書	第154集	西村広経	平成27年(2015) 3月25日

平成27年度刊行埋蔵文化財調査報告書一覧

4. 全国公立埋蔵文化財センター協議会

平成27年度北海道・東北ブロック会議は、平成27年11月18日(水)・19日(木)の両日に八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館が幹事機関となり開催し、加盟13機関中10機関、22名が参加した。会場は、初日の会議が八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館会議室、その後センター内の視察、2日目は、史跡是川石器時代遺跡、八戸市博物館、史跡根城の広場の視察見学を行った。

(1) 協議事項

- ①「平成29・30年度のブロック会議幹事役員の選出について」
- ②「平成28年度開催機関について」

(2) 照会事項

欠席機関を含めた各機関から寄せられた照会事項とそれに対する回答を集約した会議資料に基づき、照会機関からの趣旨説明の後、意見交換を行った。

- ①「施設等の入館者の推移と事業内容について」
- ②「史跡の保存活用計画の策定について」
- ③「派遣労働者の活用について」
- ④「作業員の通勤手当、有給休暇取得日分の補助対象外の賃金に係る対応について」
- ⑤「写真資料のデータ化について」
- ⑥「発掘調査の管理について」
- ⑦「労働安全衛生教育の実施教育について」
- ⑧「考古学教育の取り組み事例について」
- ⑨「調査成果に関する情報発信について」



全国公立埋蔵文化財センター協議会
平成27年度北海道・東北ブロック会議



平成27年度遺跡調査報告会

5. 情報公開

(1) 平成27年度遺跡調査報告会

平成27年度に実施した発掘調査の主な成果を報告した。1階体験交流室を報告会場、2階研修室を出土品展示会場とし、市内外から約70名の参加があった。

開催日時：11月14日(土) 13:00～16:00

内容：【発掘成果報告】14:00～16:00

- ・重地遺跡 (新井田地区) 縄文時代
- ・田面木遺跡 (田面木地区) 奈良～平安時代
- ・八幡遺跡 (館地区) 平安時代～中世
- ・八戸城跡 (三八城地区) 平安時代、江戸時代

【出土品展示】13:00～16:00

- ・八幡遺跡の灰釉陶器、牛の骨等
- ・八戸城跡の堀跡から出土した木製品等

参加者数：70名

(2) 発掘調査現地説明会

平成27年度に発掘調査を行った八幡遺跡、八戸城跡、田面木遺跡で現地説明会を実施した。

○八幡遺跡現地説明会

開催日時：6月13日(土)10:00～11:00

場所：八戸市大字八幡字下陣屋40-1(旧館公民館)

参加者数：50名

○八戸城跡現地説明会

【第1回】

開催日時：8月7日(土)10:00～15:00

場所：八戸市内丸2丁目16-1

参加者数：35名

【第2回】

開催日時：9月18日(土)10:00～, 14:00～

場所：八戸市内丸2丁目16-1

参加者数：6名(雨天のため遺物展示のみ実施)

【第3回】

開催日時：10月31日(土)10:30～

場所：八戸市内丸2丁目15・16-1地内

参加者数：47名

○田面木遺跡現地説明会

開催日時：10月3日(土)13:30～14:30

場所：八戸市大字田面木字山道下夕28-1の一部・28-2の一部

参加者数：45名



遺跡調査報告会(出土品展示)



八幡遺跡現地説明会(一般対象)



八戸城跡現地見学会(第3回堀跡)



田面木遺跡現地見学会(遺物展示)



田面木遺跡現地見学会(竪穴住居跡)

6. 史跡整備

(1) 保存活用計画書の策定

史跡是川石器時代遺跡の現状と課題を整理し、本質的価値と保存と活用についての基本方針を定めた。計画は、地元住民や有識者からなる保存管理計画策定委員会から意見を聴取し、国・県の指導を仰ぎながら作成を進め、平成28年3月に計画書として刊行した。

是川石器時代遺跡はまた、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産であることから、世界遺産登録に関連する事項を付編としてまとめた。

「第2回史跡是川石器時代遺跡保存管理計画策定委員会」
期日 平成27年12月18日
会場 是川縄文館会議室

『史跡是川石器時代遺跡保存活用計画書』
カラーA4版 111ページ + 付図2枚
「(付編)世界文化遺産に係る取扱について」
カラーA4版 10ページ

(2) 史跡維持管理

史跡是川石器時代遺跡の環境保全・景観管理のため、館の繁忙期や行事による来館者の往来、草の繁茂状況を鑑みて4月から10月にかけて除草を実施した。

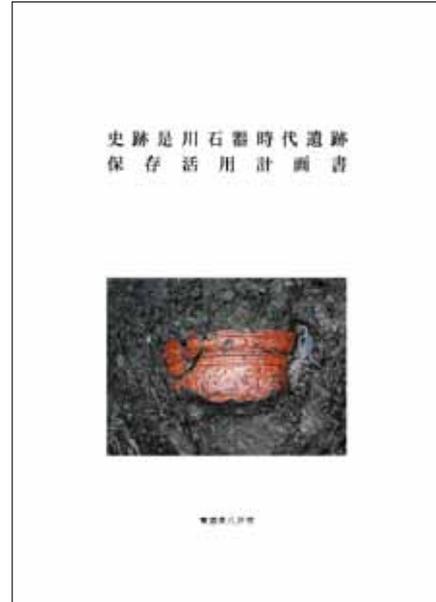
今年度より、除草範囲の一部について、ヤギによる除草を実施した。対象範囲について、バッテリー式の電気柵と仮設小屋を設け、ロープでつないだヤギを期間中移動させながら除草を行った。生えてくる草はヤギのえさになるとともに、地面が踏まれ、糞尿によって草が生えにくい状況が続き、結果的に期間を通じて草がない状態が維持された。また、ヤギ除草をしている史跡として、好意的な意見も寄せられ、維持管理のほかに、イメージ向上に効果が得られた。

①ヤギ除草（堀田遺跡・中居遺跡地内）

面積 約13,480㎡
期間 4月13日～10月31日
受託者 八戸市森林組合
事業費 934千円

②除草（分館敷地・是川遺跡記念碑・一王寺(1)遺跡地内）

面積 約43,660㎡
期間 6月3日～9月30日
受託者 株式会社昴造園建設
事業費 3,021千円



史跡是川石器時代遺跡
保存活用計画書



ヤギ除草



草刈の状況（一王寺(1)遺跡）

7. 是川遺跡出土品保存修理事業

事業計画 1期5か年計画を基本として、全2期で出土品の保存修理及び保存台製作を実施する。第1期は平成24年～28年度で実施する。

期間 1回目 平成27年6月24日(水)～平成28年2月26日(金)計8点
2回目 平成27年8月20日(木)～平成28年2月26日(金)計1点

概要 平成23年に是川遺跡出土品330点が重要文化財に追加指定された。この指定品の中には、木製品や漆塗り製品等があり、発掘調査後に保存処理が施されているが、欠損部分や脆弱な部分がある。また土器・石製品等には、石膏の充填や接合部の剥離等があり、公開活用をする上で美観が不十分なものもある。このため、出土品本来の姿を忠実に再現し、色彩も美観を損ねることがないような補修を行うとともに、脆弱な部分の強化と遺物にあわせた保存台を製作する。

内容 縄文土器1点、木製品(掘り棒2点・樹皮製容器3点・弓2点・ヤス軸柄1点)計9点の修理 内8点(掘り棒2点・樹皮製容器3点・弓2点・ヤス軸柄1点)の台座製作

受託者 株式会社 東都文化財保存研究所(埼玉県)
事業費 5,000千円(50%国庫補助)



欠損部に樹脂を充填



彩色し完成



専用の保存台

是川遺跡出土品 保存修理状況
樹皮製容器残欠

8. 埋蔵文化財活用活性化事業

事業計画 平成25年～29年度の5ヶ年で平成24年度までの収蔵資料の整理を行う。

期間 平成27年4月9日～平成28年3月31日

概要 収蔵資料の体系化を目的とし、①収蔵品のデータベース化及び再整理・再収納と②写真原版の保存修理及び公開活用を実施している。

内容 ①収蔵品再整理

平成27年度は、中居遺跡4,284点、一王寺(1)遺跡1,170点、堀田遺跡114点、風張(1)遺跡6,478点、計12,046点の出土品のデータベース化を行った。

②写真原版の保存修理及び公開活用

泉山コレクションの一部である、大正末期から昭和初期の是川遺跡の発掘状況が撮影されたガラス乾板のうち、ガラスに割れや欠け等の劣化が認められるものは保存修理及び保護処置を行い、35枚のデジタル化を実施した。また、デジタル化したものはパネル展にて公開した(→Ⅲ(2))。

受託者 堀内カラー株式会社(東京都・写真原版保存修理)

事業費 5,150千円(①+② 補助対象額4,998千円の50%国庫補助)



ガラス乾板の保護処置

写真提供：株式会社堀内カラー
アーカイブサポートセンター

V 管理運営概要

1. 協議会等

(1) 平成27年度是川縄文館運営協議会

期日 【第1回】平成27年6月26日(金)14:00～

【第2回】平成28年2月9日(火)14:00～

会場 是川縄文館 1F 会議室

委員 岡村 道雄(会長) 石川 宏之(副会長) 高田 和徳
福田 友之 木津 正博 山下 治子 島守 正典

概要 是川縄文館の運営や事業について、文化財・教育普及・広報活動等の専門的見地から評価・助言を得るための協議会。各回とも岡村会長による議事進行で協議が行われた。第1回では、平成27年度事業計画の説明のもと、特別展示等の教育普及事業の実施内容に関する質疑や意見があった。第2回では、平成27年度事業の報告及び平成28年度事業計画の説明のもとに質疑が行われたほか、特に是川縄文館事業自己点検評価について、点検項目のさらなる整理や、評価にもとづく事業の進め方等について助言があった。



第2回運営協議会

(2) 史跡是川石器時代遺跡保存管理計画策定委員会

期日 平成27年12月18日(金)13:30～

会場 是川縄文館 1F 会議室

委員 岡村 道雄(会長) 高田 和徳(副会長) 福田 友之
辻 誠一郎 野沢 秀明 泉山 重寿 古戸 良一

概要 史跡是川石器時代遺跡の保存管理計画策定を目的とし、有識者及び地権者・住民代表による検討を行う委員会。平成27年度は、事務局による保存管理計画書原案の説明のもと、記載内容の審議を行った。その後、委員会での指摘事項にもとづいて計画書案の改訂作業を進め、平成28年1月に委員へ再度意見聴取を行い、3月31日に『史跡是川石器時代遺跡保存活用計画書』を策定した。



保存管理計画策定委員会

(3) 平成27年度是川縄文館懇談会

期日 平成28年2月16日(火)10:00～

会場 是川縄文館 2F 研修室

出席者 中居町内会 田中町内会 是川地区振興会 是川団地町内連合会 八戸縄文保存協会 是川文化財愛護会 縄文是川ボランティア 是川縄文隊 各団体代表者等2名 是川縄文館職員

概要 是川縄文館の近隣町内組織及び支援団体から館の運営について助言・連携等を得るための会合。平成27年度の事業報告、平成28年度事業計画等の説明のもとに連携の進め方について協議した。出席者からは、是川縄文館と是川石器時代遺跡への周遊方法のさらなる工夫と、冬季期間中の集客対策等について意見があった。



是川縄文館懇談会

2. 日記抄

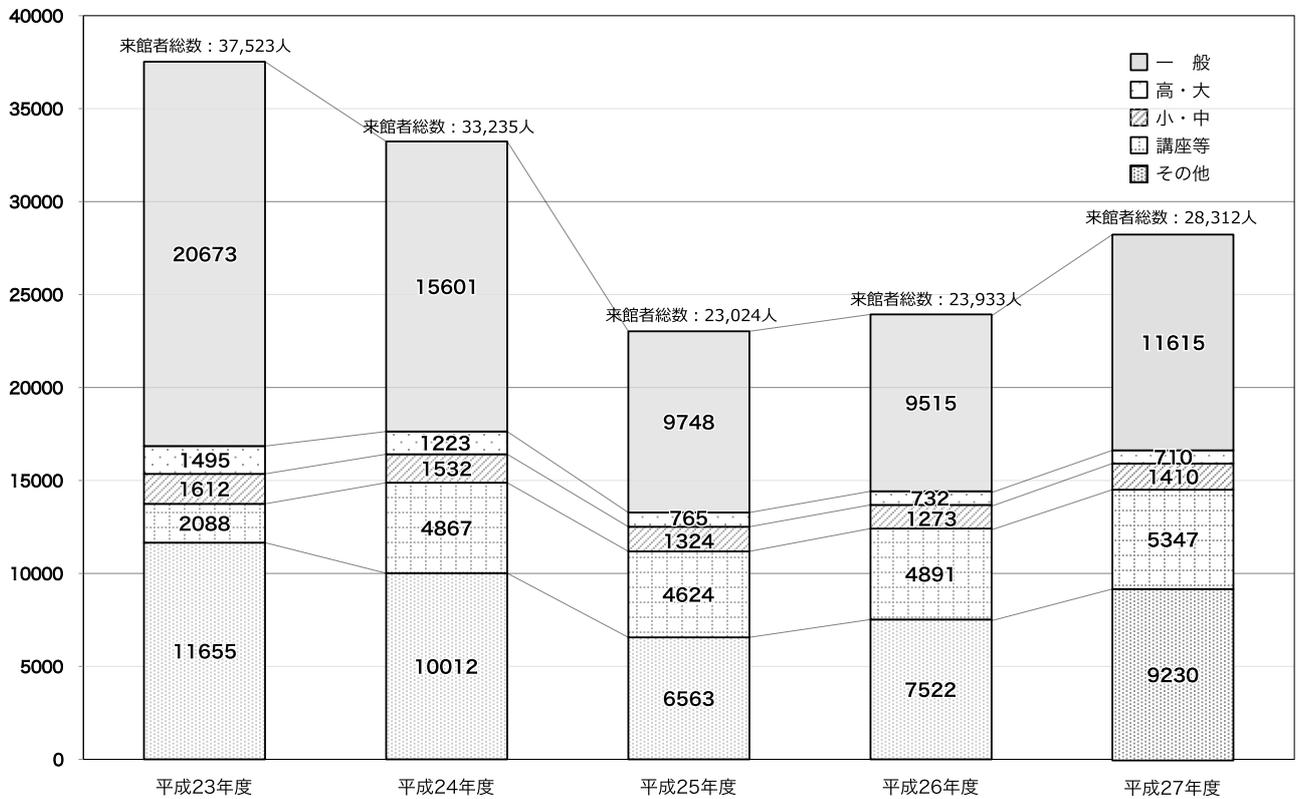
月/日	事項		
平成 27 年 (2015)			
4.3	見学：有限会社イニシオ (1 人)	6.5	取材：アール・キュー (1 人)
4.4	取材：日本放送協会 (7 人)	6.6	縄文土器作り・見学：階上町立小舟渡小学校 5・6 年 (11 人)
4.5	取材：NHK 報道局社会番組部 (7 人)		ボランティア養成講座④ (27 人) 講師：当館学芸員
4.6	取材：日本放送協会 (6 人)		ボランティア養成講座⑤ (23 人) 講師：当館学芸員
4.7	見学：社会福祉法人あすなろ会「あすなろの里」(9 人)		企画展ギャラリートーク (17 人)
4.8	視察：八戸商工会議所 (3 人)	6.7	取材：毎日新聞八戸支局 (1 人)
4.9	見学：デイサービスセンター木崎野 (15 人) / 社会福祉法人あすなろ会「あすなろの里」(6 人)	6.10	火起こし・見学：弘前縄文の会 (84 人)
4.10	見学：社会福祉法人あすなろ会「あすなろの里」(8 人)	6.11	縄文土器作り・見学：吹上小学校 6 年 (111 人)
4.11	火起こし・見学：きくよしスクール (13 人)		滑石の勾玉作り・見学：新郷村立戸来小学校 6 年 (14 人)
4.14	下見：白山台小学校 (5 人)	6.12	土製ペンダント作り・見学：八戸学院短期大学 (100 人)
4.16	下見：総合リハビリ美穂野病院デイサービスあんず (1 人)	6.13	滑石の勾玉作り・見学：三条小学校 6 年 (45 人)
4.18	縄文の布を編む教室 (5 人)		縄文土器作り教室 (14 人)
4.21	下見：八戸第一養護学校 (3 人)		ボランティア養成講座⑥ (14 人) 講師：当館学芸員・縄文は川ボランティア
4.22	滑石の勾玉作り・見学：南部町立南部小学校 6 年 (15 人)		ボランティア養成講座⑦ (12 人) 講師：当館学芸員
	講話：ふるさとの味倶楽部 (18 人) 講師：館長		八幡遺跡発掘調査現地説明会 (50 人)
	視察：八戸工業大学感性デザイン学部感性デザイン学科 (1 人)	6.14	見学：じゃがいもの会 (13 人)
4.23	縄文土器作り・見学：三戸町立斗川小学校 6 年 (8 人)	6.17	見学：北海道中央バスグループ株式会社シーピーツアーズ (10 人)
	見学：旭ヶ丘小学校 6 年 (70 人)		土製ペンダント作り・見学：田面木小学校 6 年 (46 人)
	縄文は川ボランティア激励セレモニー (24 人)		見学：八戸第一養護学校 6 年 (3 人) / 県民宿舎 (13 人)
4.24	企画展「掘り day はちのへ」内覧会 (2 人)		／八戸工業大学第二高等学校 2 年 (37 人)
	見学：青森県土地改良事業団体連合会 (6 人)	6.18	見学：城下小学校 6 年 (49 人) / 優遊会 (9 人) / 森誘クラブ (20 人)
	下見：寺分連の会 (2 人)	6.19	縄文土器作り：ニッ家老人クラブ (26 人) 於ニッ家烏谷荘
	取材：公益社団法人八戸青年会議所 (2 人)	6.20	見学：イオン労連 (20 人) / 有限会社大裕チョコ・クッキー八戸 (23 人)
	企画展「掘り day はちのへ」内覧会 (21 人)		考古学講座② (81 人) 講師：岡村道雄氏
4.25	縄文土器野焼き (16 人) 於分館	6.21	滑石の勾玉作り：個人体験学習 (4 人)
4.28	火起こし・土器文様拓本・見学：大久喜小学校 6 年 (12 人)		見学：八戸タクシー株式会社
	視察：八戸圏域水道企業団 (3 人)	6.22	見学：六戸町上町第三納税組合 (18 人)
4.30	縄文土器作り・見学：五戸町立倉石小学校 6 年 (31 人)	6.24	講話：ふるさとの味倶楽部 (16 人) 於種差海岸 講師：館長
5.1	土製ペンダント作り・見学：白山台小学校 6 年 (179 人)	6.25	火起こし・見学：久慈市小袖小学校 5・6 年 (9 人)
5.2	一日考古学者体験：(42 人)		縄文土器作り・滑石の勾玉作り：個人体験学習 (2 人)
5.3	見学：有限会社イニシオ (1 人)	6.26	見学：認定こども園マリアンハウス幼稚園 (34 人)
5.4	取材：NHK 八戸支局 (1 人)		ボランティア養成講座⑧ (20 人) 講師：当館学芸員
5.5	下見：東京私立中学高等学校地理教育研究会 (3 人)		見学：さくら病院 (15 人)
5.8	縄文土器作り・見学：明治中学校 1 年 (30 人)	6.27	是川縄文館運営協議会
	下見：NHK 青森 (2 人)		見学：東京鉄鋼株式会社 (3 人)
5.9	シカの角でペンダント作り教室 (11 人)	6.28	撮影・見学：八戸学院大学・八戸学院短期大学 (4 人)
	企画展ギャラリートーク (14 人)		見学：仙台市教育委員会 (1 人) / 新日本婦人の会せんぶり班 (20 人)
5.13	見学：八戸学院短期大学 (95 人)	7.1	縄文土器作り・見学：種差小学校 5・6 年 (13 人)
	取材：Lgo (3 人)	7.2	滑石の勾玉作り・見学：おいらせ町立百石小学校 6 年 (42 人)
5.14	火起こし・取材：NHK 青森 (5 人)	7.3	ボランティア養成講座⑨「縄文土器野焼き」(16 人) 於分館
5.15	見学：八戸学院短期大学付属幼稚園 (17 人) / 寺分連の会 (29 人)	7.4	見学：江陽小学校 6 年 (56 人) / 洋野町立帯島小学校 6 年 (4 人)
	取材：株式会社八戸テレビ放送 (2 人)		ボランティア養成講座⑩ (17 人) 講師：当館学芸員・縄文は川ボランティア
5.16	考古学講座① (55 人) 講師：千葉敏郎氏		土製ペンダント作り・講話・見学：八戸ロマン時空探検隊 (25 人)
5.17	取材：株式会社レマン (3 人)	7.5	講師：当館学芸員
5.19	見学：総合リハビリ美穂野病院デイサービスあんず (13 人) / 三八五交通株式会社 (1 人)		見学：青い森鉄道 (26 人) / JTB 東北青森市店営業 (27 人)
	取材：岩手日報社 (1 人)	7.6	見学：中里川目楽笑会 (12 人) / たかんな (40 人)
5.20	見学：函館プロジェクト株式会社 (4 人) / 総合リハビリ美穂野病院	7.7	滑石の勾玉作り・見学：階上町立石鉢小学校 6 年 (50 人)
	デイサービスあんず (13 人) / マルニ食品株式会社 (10 人)	7.8	滑石の勾玉作り・見学：金田一コミュニティーセンター (19 人)
	取材：株式会社レマン (3 人)		合掌土器作り・講話・見学：八戸市教育委員会初任者研修 (34 人) 講師：館長
5.21	見学：総合リハビリ美穂野病院デイサービスあんず (13 人)		グッジョブウィーク：大館中学校 2 年 (2 人) / 長者中学校 2 年 (2 人)
	下見：株式会社 JTB 九州 (2 人)	7.9	講話：ふるさとの味倶楽部 (18 人) 於種差海岸 講師：館長
5.22	見学：総合リハビリ美穂野病院デイサービスあんず (13 人)		見学：階上町社会福祉協議会 (17 人) / 青森県立八戸第一養護学校中学部 3 年 (7 人)
	取材：青森県企画政策部地域活力振興課 (4 人) / 十日町市教育委員会 (2 人)	7.10	グッジョブウィーク：大館中学校 2 年 (2 人) / 長者中学校 2 年 (2 人)
	ボランティア養成講座⑪ (23 人) 講師：当館学芸員		縄文土器作り・見学：南部町立名川南小学校 5・6 年 (10 人)
	滑石の勾玉作り・見学：ジョイフルパークユートピア (23 人)		見学：百石幼稚園 (36 人)
	見学：総合リハビリ美穂野病院デイサービスあんず (14 人)		視察：気仙地区教育委員会協議会 (18 人)
5.26	見学：総合リハビリ美穂野病院デイサービスあんず (13 人)		グッジョブウィーク：大館中学校 2 年 (2 人) / 長者中学校 2 年 (2 人)
5.27	縄文土器作り・見学：南部町立福地小学校 6 年 (19 人)	7.11	見学：東京吉田会 (16 人) / みやぎクラブ (20 人) / 高館幼稚園 (95 人)
	講話：ふるさとの味倶楽部 (22 人) 於島守方面 講師：館長		／NPO 法人一関文化会議所 (88 人) / 松前町教育委員会 (1 人)
5.28	滑石の勾玉作り・火起こし・見学：南部町立杉沢小学校 5・6 年 (9 人)		グッジョブウィーク：大館中学校 2 年 (2 人)
	縄文土器野焼き (21 人) 於分館		考古学講座③ (52 人) 講師：上條信彦氏
	見学：稲生会 (16 人) / 八戸学院大学 (7 人) / 総合リハビリ美穂野	7.14	見学：N T T 退職者の会 (21 人) / おいらせ町子ども会 (17 人)
	病院デイサービスあんず (11 人)		縄文土器作り・見学：第 6 回石川家親睦会 (10 人)
5.29	縄文土器作り・見学：南部町立剣吉小学校 6 年 (27 人)	7.17	見学：イニシオ (2 人)
	見学：総合リハビリ美穂野病院デイサービスあんず (12 人)	7.19	見学：百石高等学校 P T A (10 人)
5.30	ボランティア養成講座⑫ (22 人) 講師：当館学芸員	7.22	見学：デイサービスセンターベルメゾン K (9 人)
	ボランティア養成講座⑬ (22 人) 講師：当館学芸員	7.23	見学：デイサービスセンターベルメゾン K (11 人)
5.31	見学：株式会社リバース (38 人)	7.24	見学：デイサービスセンターベルメゾン K (10 人) / 楽晴会 (5 人)
6.1	見学：美容組合八戸支部 (33 人)		／高館幼稚園 (7 人)
6.2	見学：千田町老人クラブ長寿会 (33 人)	7.25	特別展内覧会：マスコミ (4 社) / ボランティア (24 人)
6.3	視察：八戸国際交流協会 (19 人)		これかわ考古学クラブ①「考古学ではどんな研究をして何がわかるのか？」(2 人) 講師：当館学芸員
6.4	縄文土器作り・見学：五戸町立上市川小学校 6 年 (23 人) / 五戸町	7.26	見学：認定こども園みどりのかぜ北ウィング (24 人)
	立切谷内小学校 6 年 (19 人)		これかわ考古学クラブ②「是川遺跡の研究からわかった縄文人のくらし①」(2 人) 講師：当館学芸員
	見学：岩泉地域活動推進センター (2 人)	7.28	取材：岩手日報社 (1 人)
		7.30	視察：青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室 (4 人)
			縄文土器野焼き (21 人) 於分館

月/日	事項	
7.31	板状土偶作り：個人体験学習(2人) 見学：文化庁(2人)	見学：クラブツーリズム(13人) 見学：八戸城北ライオンズクラブ(15人)
8.1	これかわ考古学クラブ③「是川遺跡の研究からわかった縄文人のくらし②」(2人) 講師：当館学芸員 特別展ギャラリートーク(9人) 講師：当館学芸員 見学：東日本映画(7人)／日本産業医療ガス協会(11人) 取材：株式会社東奥日報社八戸支社(1人)	9.17 見学：八戸市鶴盟大学(65人) 講師：当館長 9.18 見学：高館小学校5・6年(73人)／わかたきの会(12人) シカの角で釣針作り教室 9.19 火起こし・滑石の勾玉作り・見学：南部町立向小学校6年親子レク(28人) 縄文土器作り・見学：水戸キリストの教会(13人) 9.21 視察：京都大学総合生存学館(1人) 9.23 取材：Webマガジncorazj(2人) 9.25 縄文土器作り・見学：根城小学校6年(80人) 見学：堀野いきいき健康教室(23人)
8.2	これかわ考古学クラブ④「縄文人のものづくり技術①」(1人) 講師：当館学芸員 見学：くたくた会(13人)	9.26 縄文土器作り・見学：一般社団法人山城青年会講所(14人) 見学：十和田工業高等学校PTA(14人)／八戸工業高等専門学校(50人) 9.27 見学：月の会(15人) 視察：三内丸山町内会(50人) 9.29 取材：NHK制作局(1人) 9.30 縄文土器野焼き(16人)於分館 見学：上高津土器づくりの会(8人) 取材：読売新聞東京本社(1人)
8.3	見学：光友(2人)／三八五交通(29人) 取材：NHK八戸支局(3人)	10.2 滑石の勾玉作り・見学：三戸高等学校2年(68人) 見学：長者小学校6年(61人)／かわぬき老人クラブ寿会(31人) 10.3 田面木遺跡発掘調査現場現地説明会(45人)於田面木遺跡 視察：東京大学大学院人文社会科学系研究科考古学専攻(12人) 八戸市史講座(50人) 講師：当館学芸員(於八戸市立図書館) 火起こし・滑石の勾玉作り・琥珀勾玉作り：二ツ屋町内会(9人) 10.6 見学：JA共済連青森(20人) グッジョブウィーク：是川中学校2年(3人) 10.7 見学：社会福祉法人合歡の会函南保育園(31人)／八戸第二養護学校6年(1人) グッジョブウィーク：是川中学校2年(3人) 10.8 琥珀勾玉作り・見学：八戸商業高等学校国際経済科2年3組(41人) 10.9 企画展内覧会(18人) 見学：JX日鉱日石エネルギー株式会社(4人) 10.10 縄文土器作り講座①(15人) 講師：当館学芸員 見学：八戸市国際交流協会(1人) 取材：デーリー東北新聞社(1人)
8.4	見学：南部藩ゆかりの都市との交流事業(35人)／岩木地区納貯(9人)／日本たばこ(9人) 視察：青森県埋蔵文化財調査センター(2人) 滑石の勾玉作り・見学：ふるさと学びあい推進事業(16人)	10.11 滑石勾玉作り：八食わくわくフェスタ2015(100人)於八食センター 10.12 滑石勾玉作り：八食わくわくフェスタ2015(111人)於八食センター 10.14 取材：NHK(1人) 10.15 火起こし・見学：八戸第二養護学校中学部2年(17人) 見学：医療生協歩こう会(20人) 10.16 見学：エゾリス会(9人)／第38回全国土地改良大会青森大会(39人) 10.17 縄文土器作り講座②(13人) 講師：当館学芸員 企画展ギャラリートーク(13人) 講師：当館学芸員 見学：考古見聞会(27人) 10.18 見学：岩手県議会議員(1人)／神子田朝市(16人) 10.20 縄文土器作り・見学：東根城婦人部(12人) 見学：久慈市旭町老人クラブ(10人)
8.5	滑石の勾玉作り・見学：ふるさと学びあい推進事業(16人)	10.21 見学：是川縄文館バスバック体験会(24人)／市民ガイド八戸協会(3人) 10.22 縄文土器作り・見学：八戸第二養護学校6年(12人) 見学：青森県環境分析協議会(20人) 10.23 縄文土器作り・見学：米軍三沢基地内ソラーズ小学校6年(43人) 取材：and R(5人) 10.24 トチの実を食べる教室(23人) 10.27 縄文土器作り・見学：米軍三沢基地内ソラーズ小学校6年(45人) 取材：デーリー東北・グッジョブウィーク市川中学校(4人) 10.28 講話：ふるさとの味倶楽部(24人) 講師：当館長 縄文土器野焼き(15人)於分館 見学：有限会社イニシオ(1人) 10.29 見学：子育てサロンサンサンルーム長者(21人)／株式会社JT B九州(87人) 10.30 テラコッタ野焼き(223人)於是川中学校 10.31 企画展イベント「赤ちゃん大集合！粘土で縄文の手形・足形づくり」(59人) 企画展ギャラリートーク(15人) 講師：当館学芸員 滑石の勾玉作り：個人体験学習(5人) 八戸城跡発掘調査現場現地説明会(50人)於八戸城跡 見学：久慈経友会(13人) 11.1 視察：東京大学(3人) 11.3 講話：第63回北奥羽俳句大会(130人)於デーリー東北新聞社 講師：当館長 講話：昔こぼなし@是川(200人) 講師：疋谷伸夫氏 取材：青森放送(1人)／NHK八戸支局(1人)／東奥日報社八戸支社(1人) 見学：鹿角生健会(20人)／八戸学院光星高等学校(4人)／南郷文化財めぐり(25人) 取材：株式会社新泉社(1人)／株式会社八戸テレビ放送(2人) 11.7 企画展考古学講座(74人) 講師：斎藤慶史氏 見学：是川縄文館企画展見学ツアー(8人) 11.8 見学：青森県子連(13人) 11.10 縄文土器作り・見学：階上町立大蛇小学校6年(15人) 見学：吹上小学校5年(20人) 11.12 見学・取材：株式会社ユーザーサポートセンター三戸(3人) 11.13 滑石の勾玉作り・見学：柏崎小学校6年(92人)／青森県立八戸高等学校6年(2人) 見学：八戸短期大学付属幼稚園(65人) 11.14 平成27年度遺跡調査報告会(67人) 講師：当館学芸員
8.6	見学：JA秋田北ねぎ部会(14人)	
8.7	見学：JT東日本原料本部(7人) 取材：株式会社八戸テレビ放送(3人)	
8.8	これかわ考古学クラブ⑤「縄文人のものづくり技術②」(2人) 講師：当館学芸員 特別展ギャラリートーク(19人) 講師：当館学芸員 縄文土器作り・見学：個人体験学習(1人)	
8.9	これかわ考古学クラブ⑥「縄文人のものづくり技術③」(2人) 講師：当館学芸員 見学：うるし研究会(10人)	
8.11	滑石の勾玉作り・見学：十和田警察署洞内駐在所連絡協議会(16人)	
8.15	特別展ギャラリートーク(16人) 講師：当館学芸員	
8.18	縄文土器作り・見学：島守小学校親子レク(19人)	
8.19	見学：高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会(44人) ／JX日鉱日石エネルギー株式会社(5人)	
8.21	縄文土器作り・縄文土偶作り・見学：自然に親しむ会(16人) 火起こし：是川小学校6年(3人) 縄文まつり火起こし練習	
8.22	滑石の勾玉作り：個人体験学習(2人) 特別展ギャラリートーク：展示解説(14人) 講師：当館学芸員 博物館実習に係る見学実習：八戸市博物館(7人)	
8.23	第20回は川縄文まつり：於分館	
8.25	講話：商工会議所観光サービス部会研修会(70人)於パークホテル 講師：当館長	
8.26	縄文土器野焼き(12人)於分館 見学：山形県立博物館(3人) ／クラブツーリズム東北古代遺跡探訪縄文の里青森三内丸山遺跡(15人)	
8.27	講話：根岸公民館歴史講座講演(40人)於根岸公民館 講師：当館学芸員 見学：新日本印刷株式会社(3人)	
8.28	滑石の勾玉作り・見学：五戸町立五戸小学校6年(94人) 見学：小久慈公民館(31人) 視察：石川県輪島市漆芸美術館(1人)	
8.29	特別展考古学講座(92人) 講師：四柳嘉章氏(石川県輪島漆芸美術館館長) 特別展ギャラリートーク(55人) 講師：四柳嘉章氏(石川県輪島漆芸美術館館長) 縄文土器作り：東糠塚百働会(13人)於糠塚集会所	
9.1	縄文土器作り：是川小学校3年(48人) 見学：山遊会(38人)／青森県NOSA1部長会連合協議会(29人)	
9.2	縄文土器作り：是川小学校4年(40人)	
9.3	見学：津軽保険生協(10人)	
9.4	見学：国立歴史民俗博物館共同研究会(16人)	
9.5	縄文の布を編む講座(9人) 見学：岩手銀行(20人)／全水道八戸(14人)／三八五バス(21人)／ 青森県観光ボランティアガイド連絡協議会(18人)／はちのへじおめぐりバスツアー(42人)	
9.6	見学：株式会社びゅうトラベルサービス(16人)／はちのへじおめぐりバスツアー(41人)	
9.7	縄文土器作り：是川小学校5年(33人)	
9.8	講話：八戸市タクシー協会タクシー乗務員研修会(116人) 於グランドサンピア 講師：当館長 見学：中沢中学校2年(5人)／町畑小学校5年(11人) ／青森県土地改良事業連合会(9人)	
9.9	講話：八戸市タクシー協会タクシー乗務員研修会(117人) 於グランドサンピア 講師：当館長 合掌土偶作り・見学：是川小学校6年(40人)	
9.10	講話：八戸市タクシー協会タクシー乗務員研修会(117人) 於グランドサンピア 講師：当館長 見学：九州大学大学院比較社会文化研究院(1人)	
9.11	土製ペンダント作り：是川小学校1年(32人) 見学：類家保育園(11人)／明治大学博物館友の会(11人)	
9.12	講話：八戸市史講座(70人)於八戸市立図書館 講師：当館学芸員	
9.13	取材：公益社団法人八戸青年会議所(2人)	
9.15	土製ペンダント作り・見学：十和田市第四白菊保育園(15人) 見学：公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(83人)	
9.16	板状土偶作り：是川小学校2年(34人)	

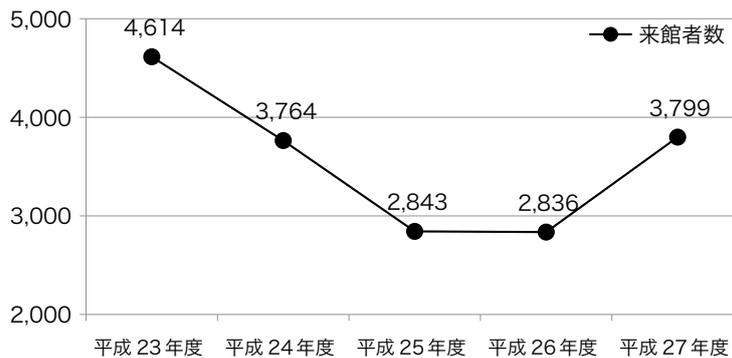
月/日	事項		
	見学：ひろの町民大学(32人)／日専連旅行センター弘前支店(29人)	1.30	ボランティア養成講座②(17人) 講師：当館学芸員
11.15	視察：陸前高田市議会(6人)		見学：陸上自衛隊(33人)
11.17	講話：常規寺お年越し法要(400人)於常規寺 講師：当館長	2.1	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(7人)
	縄文土器作り・見学：多賀台小学校6年(27人)／田子町立清水頭小学校3～6年(14人)	2.2	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(7人)
	見学：五戸教育委員会(22人)／修光園サテライト(7人)	2.3	五郎丸歩選手サイン色紙寄贈セレモニー
	視察：香川県漆芸研究所(3人)	2.4	取材：河北新聞社八戸支局(1人)／毎日新聞社(1人)
	取材：デーリー東北新聞社(2人)	2.6	滑石の勾玉作り・見学：城北小学校6年(102人)
11.18	見学：平成27年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会(22人)／秋田県羽後観光物産協会(13人)	2.9	考古学講座⑥(47人) 講師：吉川昌伸氏
11.19	見学：階上町立階上小学校5・6年(12人)／株式会社上戸工業(6人)	2.10	取材：毎日新聞社(1人)
11.20	見学：五戸町教育委員会(25人)	2.11	平成27年度第2回八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館運営協議会
	視察：青森県市議会議長会平成27年度青森県市議会議員研修会(181人)		かがり火えんぶり点火式練習(3人)
11.21	縄文土器作り講座③「縄文土器野焼き」(22人)於分館 講師：当館学芸員	2.11	見学：東北電力株式会社八戸火力発電所(2人)
	企画展ギャラリートーク(13人) 講師：当館学芸員	2.11	是川公民館歴史講演会「縄文の里は川の歴史をたどる」(72人)
11.22	講話：縄文に遊ぶ会(13人)於まなびレジャーズ学職開発株式会社	2.13	講師：当館長
	講師：当館長	2.16	ボランティア養成講座③(23人) 講師：栗村知弘氏
	見学：弘前大学(16人)	2.17	滑石の勾玉作り：八戸幼稚園(60人)於八戸幼稚園
11.23	見学：八戸ロマン時空探検隊(19人)		かがり火えんぶり点火式(3人)於：市庁前広場
11.25	講話：ふるさとの味倶楽部(23人) 講師：当館長	2.19	見学：株式会社びゅうトラベルサービス(9人)
	視察：九州国立博物館(1人)	2.20	視察：九戸村教育委員会(5人)
11.27	講話：八戸市老人クラブ連合会(150人)於八戸市総合福祉会館		見学：東奥日報旅行センター(22人)
	講師：館長	2.20	ボランティア養成講座④(38人)
	見学：西園小学校6年(7人)		講師：当館学芸員・縄文は川ボランティア
11.28	どんぐりを食べる教室(27人)		縄文土器作り教室(39人) 講師：当館学芸員・縄文は川ボランティア
	見学：弘前懇談会(4人)	2.21	えんぶり鑑賞会：妻神えんぶり組
12.1	火起こし・滑石の勾玉作り：町畑小学校6年親子レク(73人)於町畑小学校)		視察：北海道新聞社(2人)
	見学：桔梗野小学校5年(12人)	2.21	講話：二戸市埋蔵文化財センター発掘調査報告会(62人)
12.3	見学：八戸工業大学第一高等学校3年(92人)	2.23	於二戸市埋蔵文化財センター 講師：当館学芸員
	／有限会社イニシオ(1人)／北東北三県観光立県推進協議会(10人)	2.24	見学：株式会社三八五交通(1人)
12.4	視察：静岡商工会議所(1人)／総合地球環境学研究所(1人)	2.24	取材：南方都市报・広東電視台(5人)
12.5	考古学講座④(56人) 講師：羽生淳子氏	2.27	ボランティア養成講座⑤(39人) 講師：八戸消防署救急隊
	講話：第4回閉伊地方の蝦夷『古代三陸の昆布1,300年記念シンポジウム』(50人)於宮古市民文化会館 講師：当館学芸員	2.28	取材：北日本放送株式会社(3人)
12.6	見学：中央大学文学部(4人)	3.2	取材：毎日新聞八戸通信部(1人)
12.7	講話：青森県土地改良団体連合会職員会(89人)於グランドサンピア 講師：当館長	3.5	ボランティア養成講座⑥(27人) 講師：当館学芸員・縄文は川ボランティア
12.8	視察：青森県三八地域県民局(7人)	3.7	視察：総合地球環境研究所(4人)
12.9	見学：三菱電機工業株式会社(8人)	3.10	資料調査：青森県埋蔵文化財調査センター(1人)
12.10	見学：三沢商業高等学校ラグビー部(14人)	3.11	見学：イニシオ(1人)
	取材：東奥日報社(1人)／デーリー東北新聞社(1人)	3.12	ボランティア養成講座⑦(8人) 講師：当館学芸員・縄文は川ボランティア
12.11	滑石の勾玉作り・見学：陸上自衛隊八戸駐屯地(21人)		縄文土器作り教室(17人) 講師：当館学芸員・縄文は川ボランティア
12.12	講話：盛岡市西部公民館歴史講座(70人)於盛岡市西部公民館	3.13	土製ペンダント作り：あおもり JOMON フェスタ(100人)
	講師：当館学芸員	3.15	於イオン下田ショッピングセンター
	滑石の勾玉作り・見学：きくよしスクール(18人)	3.16	土製ペンダント作り・見学：米軍三沢基地内ソラーズ小学校1年(32人)
	見学：青森工業高等学校ラグビー部(18人)	3.17	視察：株式会社三島屋楽器店(1人)
12.13	講話：公開研究会「八戸の集落 vol.3」(52人) 講師：当館学芸員	3.17	土製ペンダント作り・見学：米軍三沢基地内ソラーズ小学校1年(34人)
	取材：八戸商業高等学校(3人)	3.18	見学：三戸中央公民館目時分館(20人)
	視察：東北芸術工科大学歴史遺産学科(10人)	3.18	土製ペンダント作り・見学：米軍三沢基地内ソラーズ小学校1年(37人)
12.17	見学：根岸小学校6年(87人)	3.19	ボランティア養成講座⑧(35人) 講師：当館学芸員・縄文は川ボランティア
	取材：東奥日報社(1人)		講話：八戸農語会「3月八戸農語会定例会」(21人)
12.19	縄文土器の拓本教室(6人)	3.21	於ヴィアノヴァ 講師：館長
	取材：デーリー東北新聞社(1人)		火起こし・見学：ソーシャルファームエッグス(8人)／個人体験学習(5人)
12.26	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(9人)	3.21	見学：ちくさワールド(6人)
平成28年(2016)		3.25	ボランティア養成講座⑨博物館研修(25人) 引率：当館学芸員
1.5	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(7人)	3.26	見学：軽米町教育委員会(13人)
1.6	土器の文様拓本作り・滑石の勾玉作り・火起こし：個人体験学習(3人)		ボランティア養成講座⑩(35人) 講師：工藤竹久氏
	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(7人)	3.29	見学：東部トップアーツ株式会社(12人)
1.7	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(9人)		取材：是川中学校2年(3人)
1.8	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(8人)	3.30	たいなか保育園(3人)
1.9	滑石でペンダント作り教室(10人)	3.31	縄文土器野焼き(20人)於分館 講師：当館学芸員
1.10	取材：朝日新聞社東京本社(1人)		
1.11	縄文土器作り：個人体験学習(2人)		
1.14	取材：日本放送局八戸支局(3人)		
	視察：復興庁青森事務所(4人)／千葉市立郷土博物館(1人)		
	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(7人)		
1.15	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(8人)		
1.16	考古学講座⑤(55人) 講師：國木田大氏		
	火起こし・見学：湊児童館母親クラブ(35人)		
	取材：日本放送局八戸支局(3人)		
1.17	見学：株式会社三八五流通(4人)		
1.21	講話：はっちボランティアガイド(38人) 講師：当館長		
1.23	ボランティア養成講座⑪(32人) 講師：当館学芸員		
	取材：北海道新聞社(2人)		
1.26	取材：読売新聞青森支局(1人)		
	打合せ：是川の歴史再発見ガイドブック編集委員会(7人)		
1.27	見学：八戸学院大学(5人)		
1.29	板状土器作り・見学：五戸町立五戸小学校5年(70人)		
	取材：青森放送(3人)		

3. 来館者利用状況

月	個人				団体				減免入館者					有料観覧者	全額免除観覧者	講座等入館者	本館総入館者	開館日	平均入館者数	分館入館者総計	総計
	一般	大・高	小・中	計	一般	大・高	小・中	計	障がい	介護	高齢	優待	計								
4月	554	10	71	635	0	0	28	28	9	7	56	1	73	736	349	341	1,426	27	53	143	1,569
5月	1,230	45	133	1,408	71	92	25	188	40	24	234	11	309	1,905	644	456	3,005	27	111	510	3,515
6月	898	21	52	971	177	35	37	249	59	33	136	3	231	1,451	524	408	2,383	26	92	377	2,760
7月	1,026	22	65	1,113	202	0	86	288	22	17	143	32	214	1,615	570	434	2,619	28	94	326	2,945
8月	1,928	109	331	2,368	99	0	90	189	36	27	228	30	321	2,878	1,636	623	5,137	27	190	1,208	6,345
9月	1,156	36	42	1,234	214	50	21	285	12	8	125	25	170	1,689	940	478	3,107	27	115	466	3,573
10月	893	10	17	920	252	62	68	382	18	13	156	44	231	1,533	439	387	2,359	28	84	211	2,570
11月	823	20	73	916	125	0	0	125	21	13	91	27	152	1,193	1,198	454	2,845	25	114	239	3,084
12月	294	31	7	332	21	86	0	107	4	3	20	18	45	484	264	283	1,031	23	45	39	1,070
1月	373	20	21	414	33	0	66	99	5	3	34	27	69	582	129	337	1,048	24	44	16	1,064
2月	558	23	26	607	20	0	0	20	7	6	68	29	110	737	228	677	1,642	23	71	45	1,687
3月	624	38	47	709	44	0	104	148	26	17	88	40	171	1,028	213	469	1,710	28	61	219	1,929
計	10,357	385	885	11,627	1,258	325	525	2,108	259	171	1,379	287	2,096	15,831	7,134	5,347	28,312	313	90	3,799	32,111



本館における過去5年間の来館者数の推移



分館における過去5年間の来館者数の推移

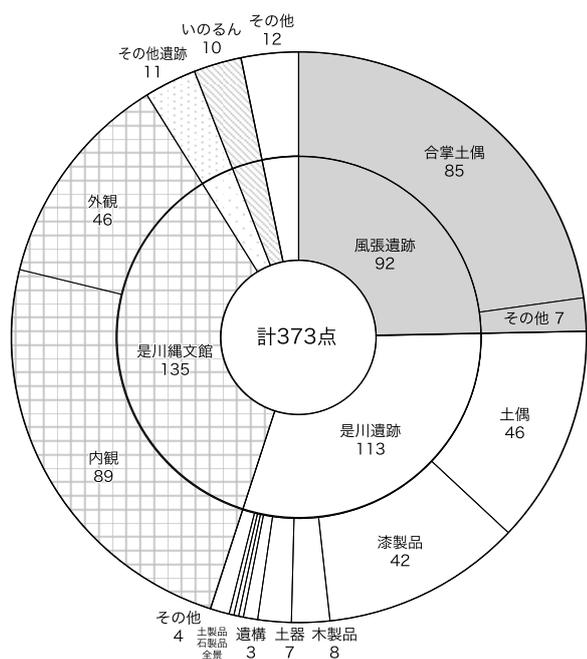
4. 市内小中学校利用状況

入館日	学校名	内容	人数	入館日	学校名	内容	人数	入館日	学校名	内容	人数
4/23	旭ヶ丘小学校6年	見学	68	8/18	島守小学校6年	見学・体験	9	10/2	長者小学校6年	見学	57
4/28	大久喜小学校6年	見学・体験	10	9/1	是川小学校3年	体験	45	10/15	八戸第二養護学校 中学部2年	見学・体験	10
5/1	白山台小学校6年	見学・体験	172	9/2	是川小学校4年	体験	37	10/22	八戸第二養護学校6年	見学・体験	9
5/8	明治中学校1年	見学・体験	28	9/7	是川小学校5年	体験	31	11/10	吹上小学校5年	見学	19
6/10	吹上小学校6年	見学・体験	107	9/8	中沢中学校2年	見学	5	11/13	柏崎小学校6年	見学・体験	86
6/12	三条小学校6年	見学・体験	43	9/8	町畑小学校5年	見学	9	11/13	八戸聾学校	見学・体験	1
6/17	田面木小学校6年	見学・体験	43	9/9	是川小学校6年	見学・体験	38	11/17	多賀台小学校6年	見学・体験	25
6/17	八戸第一養護学校6年	見学	1	9/11	是川小学校1年	体験	30	11/27	西園小学校6年	見学	6
6/18	城北小学校6年	見学	44	9/16	是川小学校2年	体験	32	12/1	桔梗野小学校5年	見学	11
7/1	種差小学校5年・6年	見学・体験	11	9/18	高館小学校5年・6年	見学	67	12/17	根岸小学校6年	見学	81
7/3	江陽小学校6年	見学	53	9/25	根城小学校6年	見学・体験	76	2/4	城北小学校6年	見学・体験	99
7/8	八戸第一養護学校 中等部3年	見学	2	計34校 1,365人(見学423人 体験175人 見学・体験767人)							

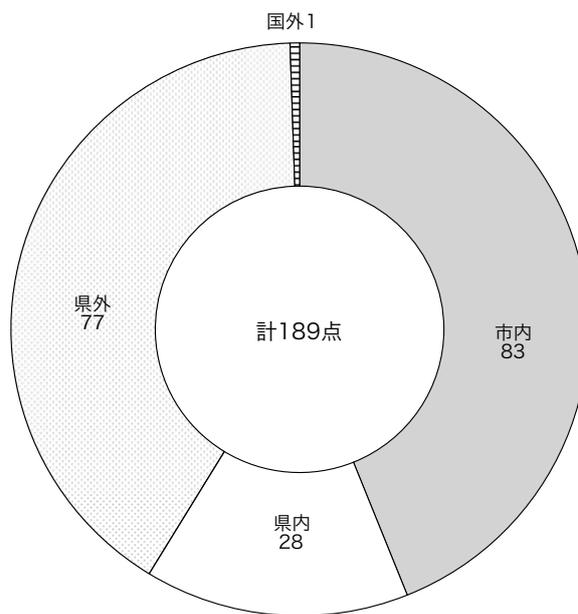
5. 資料利用状況

(1) 映像資料

平成27年度は、申請数189件、合計373点の利用申請があった。前年と比べ点数は減少したが、件数は増加した。今年度の申請者は、県内が半数を占めた。利用目的では、書籍等への掲載だけでなく、テレビなどへの利用が増加した。



映像資料利用種別内訳



映像資料利用依頼先内訳

番号	申請者	資料名	点数	利用方法	許可	掲載先
1	日本放送協会	常設展示室	1	撮影	4/4	NHK スペシャル『アジア巨大遺跡』
2	株式会社ジェイアール東日本企画盛岡支店	風張1遺跡 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	4/7	『あおり紀行(夏・秋版)』
3	観光課	風張1遺跡 合掌土偶ほか	3	写真貸与・掲載	4/7	映画『ライアの祈り』ロケ地マップ
4	株式会社デーリー東北新聞社	常設展示室	1	撮影	4/8	取材
5	株式会社宝島社	是川中居遺跡 漆塗り製品ほか	26	写真貸与・掲載	4/9	書籍『別冊宝島 素晴らしい日本文化の起源 岡村道雄氏が案内する縄文の世界』
6	信越放送株式会社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/9	テレビ番組
7	株式会社敬文舎	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/10	書籍『日本歴史 わたしの最新講義シリーズ』
8	公益社団法人八戸青年会議所	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/14	スタンプカード
9	株式会社山河	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/16	書籍『橋本麻里の日本美術史全3巻』
10	株式会社小学館	風張1遺跡 合掌土偶	2	写真貸与・掲載	4/17	書籍『日本美術全集』
11	大日本印刷株式会社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/17	ポスター
12	クラブツーリズム株式会社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/21	パンフレット
13	有限会社しんぼり	マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	4/23	お土産品
14	公益社団法人八戸青年会議所	常設展示室ほか	2	撮影	4/24	Facebook 掲載
15	観光課	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/24	『フォーラムマンスリーガイド6月号』
16	ジェーンマーケティング株式会社	縄文学習館 全景ほか	3	撮影	4/25	デジタル地図
17	有限会社スタジオ大島	常設展示室ほか	2	撮影	5/1	卒業アルバム
18	日本放送協会 八戸支局	企画展示室ほか	2	撮影	5/4	ニュース番組
19	有限会社リタビクチャル	常設展示室	1	撮影	5/5	ドキュメンタリー映画
20	日本放送協会 青森支局	常設展示室	1	撮影	5/8	あつふるワイド
21	Lgo	常設展示室ほか	2	撮影	5/13	取材
22	日本放送協会 青森支局	常設展示室ほか	2	撮影	5/14	あつふるワイド
23	観光課	常設展示室	1	撮影	5/15	SNS 掲載
24	株式会社八戸テレビ放送	企画展示室	1	撮影	5/15	HTV ニュース番組
25	株式会社レマン	常設展示室	1	撮影	5/17	『トランヴェール』
26	岩手日報社	企画展示室	1	撮影	5/19	日刊紙
27	是川音頭保存協会	マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	5/19	チラシ、ポスター
28	有限会社しんぼり	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	5/20	菓子箱
29	信越放送株式会社 諏訪放送局	常設展示室ほか	1	写真貸与・掲載	5/22	テレビ番組
30	響田亜紀子	常設展示室ほか	2	撮影	5/22	SNS 掲載
31	青森県企画政策部地域活力振興課	常設展示室ほか	2	撮影	5/22	SNS 掲載
32	株式会社マガジンハウス	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	5/24	雑誌『BRUTUS』
33	東北芸術工科大学	風張1遺跡 合掌土偶	2	写真貸与・掲載	5/24	雑誌『東北文化友の会会報』
34	株式会社セブンクリエイティブ	風張1遺跡 合掌土偶	3	写真貸与・掲載	5/25	書籍『にっぽん全国土偶手帳 35』
36	川崎近海汽船株式会社北海道支社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	5/29	観光 PR チラシ
37	株式会社寿屋	マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	6/1	烏帽子作製、販売
38	観光課	常設展示室ほか	1	撮影	6/2	ドラマ撮影
39	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議	風張1遺跡 合掌土偶ほか	1	写真貸与・掲載	6/2	展示解説
40	株式会社新泉社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/2	書籍『十二支の動物たちの考古学』
41	旅行読売出版社	常設展示室	1	写真貸与・掲載	6/2	旅行雑誌
42	アール・キュー	是川縄文館内	1	撮影	6/4	テレビ番組
43	毎日新聞青森支局	常設展示室	1	撮影	6/6	日刊紙
44	株式会社淡交社東京支社	是川中居遺跡 漆塗り樹皮製容器ほか	6	撮影	6/6	書籍『ザンテイ世界遺産の旅』
45	鬼灯書籍株式会社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/6	書籍『仮面の土偶』
46	赤印印刷工業株式会社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/9	観光 PR 用名刺
47	吹上小学校	常設展示室ほか	2	撮影	6/10	見学・体験学習撮影
48	株式会社セブンクリエイティブ	風張1遺跡 合掌土偶ほか	3	写真貸与・掲載	6/10	書籍『にっぽん全国土偶手帖』
49	茶道裏千家淡交会青森青年部	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/15	チケット・ポスター
50	毎日新聞青森支局	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/15	日刊紙
51	八戸第一養護学校	常設展示室ほか	2	撮影	6/16	卒業旅行撮影
52	橋本行生内科	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/18	自著『魂が救われるために第7巻』
53	青森県企画政策部地域活力振興課	是川中居遺跡 漆塗り樹皮製容器	1	写真貸与・掲載	6/19	パネルボード
54	株式会社アイズ	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/19	封筒
55	株式会社デーリー東北新聞社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/24	社史
56	八戸学院大学・八戸学院短期大学	常設展示室	1	撮影	6/27	大学案内
57	八戸市中心街ターミナルモビリティセンター	是川縄文館外観写真ほか	7	写真貸与・掲載	6/30	バスバックチラン
58	株式会社小学館クリエイティブ	長七谷地貝塚出土 赤御堂式土器ほか	2	写真貸与・掲載	7/3	書籍『キッズベディア世界遺産』
59	八戸ポータルミュージアムはっち	常設展示室ほか	2	撮影	7/4	事業記録
60	明治大学黒曜石研究センター	日向冷水遺跡 出土品		撮影	7/4	研究
61	びゅうプラザ八戸駅	是川縄文館外観写真ほか	3	写真貸与・掲載	7/5	観光キャンペーン
62	階上町立石鉢小学校	是川縄文館外観	1	撮影	7/6	卒業アルバム
63	松前町教育委員会	八戸城跡 悪戸焼ほか	2	撮影	7/10	調査
64	観光課	風張1遺跡 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	7/17	PR 用ポスター・チラシ
65	一般社団法人十和田市観光協会	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	7/18	バスバックチラン
66	柏書房株式会社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	7/18	書籍『トイレ学大事典』
67	八戸ポータルミュージアムはっち	いのるんグッズ	1	撮影	7/18	『はちみつ』
68	あおりデジタルアーカイブ・コンソーシアム	是川中居遺跡出土 土器集合写真	1	写真貸与・掲載	7/21	インターネット
69	三八地区事務局長会	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	7/21	要項
70	青森県立八戸商業高等学校	マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	7/23	android カメラアプリ製作
71	青森県立高等学校教育研究会工業部会	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	7/24	大会資料
72	八戸ポータルミュージアムはっち	是川中居遺跡 遮光器土偶ほか	37	写真貸与・掲載	7/24	『はちみつ21号』
73	くまいた工房	是川中居遺跡 籠形木製品	1	写真貸与・掲載	7/24	書籍『木と日本人 材木一丸太と板』
74	日経 BP パブリッシング	常設展示室	1	撮影	7/26	信用金庫会員誌
75	岩手日報社	企画展示室	1	撮影	7/28	日刊紙
76	株式会社東奥日報社 八戸支社	企画展示室	1	撮影	8/1	日刊紙
77	日本放送協会 八戸支局	企画展示室	1	撮影	8/3	日刊紙
78	七戸町教育委員会	常設展示室ほか	2	撮影	8/5	Facebook 掲載
79	株式会社八戸テレビ放送	常設展示室ほか	2	撮影	8/7	ニュース番組
80	株式会社デーリー東北新聞社	常設展示室ほか	2	撮影	8/23	日刊紙

平成 27 年度映像資料利用依頼一覧(1)

番号	申請者	資料名	点数	利用方法	許可	掲載先
81	株式会社グレイル	是川中居遺跡 土坑墓ほか	2	写真貸与・掲載	9/1	書籍『天皇陵と消えた都の謎』
82	青森県高等学校長協会三八地区	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	9/8	大会冊子
83	日本放送協会 青森放送局	是川中居遺跡 藍胎漆器ほか	3	写真貸与・掲載	8/28	特集番組
84	株式会社協同 八戸支局	常設展示室	1	撮影	9/5	はちのへジオめぐりバスツアー記録
85	株式会社協同 八戸支局	常設展示室	1	撮影	9/6	はちのへジオめぐりバスツアー記録
86	エムズクリエイト	体験交流室	1	撮影	9/9	卒業アルバム
87	公益財団法人八戸青年会議所	常設展示室ほか	2	撮影	9/13	パネル
88	公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	常設展示室ほか	2	撮影	9/15	記録
89	有限会社スタジオ大島	常設展示室	1	撮影	9/18	卒業アルバム
90	伊達市教育委員会	是川中居遺跡 漆塗り土器ほか	2	写真貸与・掲載	9/18	ホームページ
91	Web マガジンコラージュ	常設展示室ほか	2	撮影	9/23	『Web マガジンコラージュ 10月号』
92	有限会社スタジオ大島	常設展示室ほか	2	撮影	9/25	卒業アルバム
93	東洋アドシステム株式会社	是川縄文館外観写真ほか	2	写真貸与・掲載	9/26	タウン情報誌『月刊 acute10月号特集』
94	日本放送協会	常設展示室	1	撮影	9/29	番組『ご先祖様の旅』
95	株式会社アッシュ	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	9/30	書籍『もっと知りたい日本の国宝』
96	一般社団法人八戸建設業協会	風張1遺跡 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	9/30	年賀状
97	株式会社小学館クリエイティブ	風張1遺跡 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	9/30	書籍『NHKスペシャル アジア巨大遺跡』
98	株式会社グランフォート	常設展示室ほか	2	撮影	10/2	卒業アルバム
99	八戸市小学校社会科教育研究会	是川縄文館外観写真	1	写真貸与・掲載	10/2	『社会科副読本』
100	株式会社デーリー東北新聞社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	10/9	特集号
101	株式会社グレイル	是川石器時代遺跡 漆塗り土器	1	写真貸与・掲載	10/9	書籍『知っておきたい日本の成り立ち』
102	青森県立郷土館	市子林遺跡 狩猟土器	1	写真貸与・掲載	10/9	特別展『環状列石と周提墓』
103	日本放送協会 八戸支局	企画展示室	1	撮影	10/14	ニュース番組
104	株式会社小学館	是川中居遺跡 漆塗り土器	1	写真貸与・掲載	10/15	書籍『日本美術全集 第1巻「日本美術創世記」』
105	株式会社室蘭民報社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	10/15	日刊紙
106	株式会社ジェイアール東日本企画	風張1遺跡 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	10/22	ガイドブック
107	and R	常設展示室ほか	2	撮影	10/23	『ハイウェイウォーカー 1月号』
108	株式会社山川出版社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	10/27	書籍『中高一貫校向 日本史』
109	花巻市博物館	八戸城跡 花巻人形	1	写真貸与・掲載	10/28	日刊紙
110	青森県埋蔵文化財調査センター	松館遺跡 亀形土製品	1	撮影	10/30	調査
111	日本放送協会 八戸支局	体験交流室ほか	2	撮影	11/3	ニュース番組
112	株式会社東奥日報社 八戸支社	体験交流室	1	撮影	11/3	日刊紙
113	青森放送	常設展示室ほか	2	撮影	11/3	ニュース番組
114	株式会社八戸テレビ放送	企画展示室	1	撮影	11/6	ニュース番組
115	and R	是川縄文館外観写真ほか	3	写真貸与・掲載	11/7	『ハイウェイウォーカー 1月号』
116	株式会社ユニフォトプレスインターナショナル	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	11/7	大学受験問題集
117	日本テレビ	風張1遺跡 合掌土偶ほか	14	写真貸与・掲載	11/10	番組『ズームイン!!サタデー』
118	集英社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	11/11	書籍『学習まんが日本の歴史1巻』
119	株式会社ユーザーサポートセンター八戸	常設展示室ほか	2	撮影	11/12	フォトコンテスト用
120	八戸学院光星高等学校	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	11/13	入学試験問題
121	イワダテフォトスタジオ	常設展示室	1	撮影	11/13	卒業アルバム
122	株式会社ネクス	是川中居遺跡出土 皿形土器ほか	5	写真貸与・掲載	11/14	テレビ番組『開運!なんでも鑑定団』
123	株式会社グレイル	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	11/14	書籍『教科書には載らない真実の日本史』
124	青森県環境生活部県民生活文化課	八戸市埋蔵文化財調査報告書95 重地遺跡	1	写真貸与・掲載	11/16	書籍『青森県史 資料編 考古1』
125	株式会社デーリー東北新聞社	常設展示室ほか	2	撮影	11/17	新年号
126	九州国立博物館	是川中居遺跡 イモガイ形土製品	1	撮影	11/25	調査
127	青森県埋蔵文化財調査センター	是川中居遺跡 管玉	1	撮影	11/25	調査
128	観光課	常設展示室	1	撮影	11/29	JAL機内誌
129	株式会社さきたま出版会	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	12/5	書籍『埼玉の考古学入門』
130	株式会社ビーエフエム	平成27年度是川縄文館パネル展チラシ写真	1	写真貸与・掲載	12/3	番組表
131	日本原燃株式会社	長七谷地貝塚 赤御堂式土器ほか	4	写真貸与・掲載	12/3	会員募集案内
132	三沢商業ラグビー部	是川縄文館館内	1	撮影	12/10	集合写真
133	東北芸術工科大学	田向冷水遺跡 出土品	1	撮影	12/12	
134	青森工業高等学校	常設展示室ほか	2	撮影	12/12	記念撮影
135	株式会社ランズ	是川中居遺跡 遮光器土偶	1	写真貸与・掲載	12/13	書籍『日本歴史大地図』
136	八戸市都市整備部都市政策課	常設展示室ほか	2	撮影	12/15	『広報はちのへ3月号』
137	株式会社東奥日報社 八戸支社	企画展示室	1	撮影	12/17	日刊紙
138	有限会社グルーラップ	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	12/18	月刊誌『家庭画法3月号特集「国宝」』
139	株式会社ザイオン	風張1遺跡 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	12/18	番組『有吉反省会』
140	株式会社デーリー東北新聞社	風張1遺跡 合掌土偶ほか	3	写真貸与・掲載	12/18	新年号
141	八戸市健康増進課	マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	12/18	『わが家の健康カレンダー』
142	株式会社デーリー東北新聞社	常設展示室	1	撮影	12/19	日刊紙
143	是川地区振興会	常設展示室ほか	2	撮影	12/26	ガイドブック
144	三八五交通株式会社	是川縄文館外観	1	撮影	12/28	広告
145	八戸市都市整備部都市政策課	是川中居遺跡 土偶ほか	3	写真貸与・掲載	12/28	『広報はちのへ3月号』
146	株式会社寿屋	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	1/4	烏帽子制作販売
147	八戸中心街ターミナルモビリティセンター	風張1遺跡 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	1/4	冊子『バスさんぽ八戸駅』
148	株式会社朝日新聞社 東京本社	風張1遺跡 合掌土偶	1	撮影	1/10	夕刊紙
149	山形県教育庁総務課	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	1/13	『郷土愛を育む中学生向け副読本』
150	日本放送協会 八戸支局	常設展示室ほか	3	撮影	1/14	ニュース番組
151	千葉市立郷土博物館	是川中居遺跡 掘り棒写真ほか	5	写真貸与・掲載	1/14	郷土史講座『日本人と植物』
152	響田亜紀子	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	1/16	日刊紙
153	草刈 朋子	是川中居遺跡 壺形土器ほか	4	写真貸与・掲載	1/16	フリーペーパー
154	日本放送協会 八戸支局	常設展示室	1	撮影	1/16	NHKニュース
155	東京書籍株式会社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	1/19	中学校社会科デジタル教材
156	北海道新聞社	常設展示室ほか	2	撮影	1/23	日曜版『東北を味わう』
157	読売新聞社 青森支局	国宝展示室	1	撮影	1/16	取材
158	青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	1/27	パネル展
159	青森放送局株式会社	常設展示室ほか	2	撮影	1/29	『八戸広報番組 子どもたちの体験学習』

平成27年度映像資料利用依頼一覧(2)

番号	申請者	資料名	点数	利用方法	許可	掲載先
160	株式会社国書刊行会	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/1	書籍『縄文人の世界観』
161	株式会社道新観光	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/2	ツアーパンフレット
162	株式会社朝日新聞社 八戸支局	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/3	日刊紙
163	毎日新聞社八戸通信部	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/3	日刊紙
164	株式会社朝日新聞社 八戸支局	ミュージアムショップ	1	撮影	2/3	日刊紙
165	毎日新聞社	国宝展示室	1	撮影	2/3	日刊紙
166	青森放送局 八戸支社	是川縄文館外観ほか	2	撮影	2/5	ニュース番組
167	株式会社朝日新聞社	常設展示室	1	撮影	2/6	日刊紙
168	株式会社ランズ	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/9	書籍『日本歴史大地図』
169	株式会社チェックトラベルセンター	是川石器時代遺跡全景写真ほか	2	写真貸与・掲載	2/17	新聞広告
170	八戸工業高等専門学校	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/20	生徒作成英語版パンフレット
171	デーリー東北新聞社	1階アトリウム	1	撮影	2/20	日刊紙
172	有限会社サウンドクリエイト	1階アトリウム	1	撮影	2/20	DVD『冬の暮らし』
173	東奥日報社八戸支社	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/23	日刊紙
174	南方都市报 広東電視室	常設展示室ほか	2	撮影	2/24	新聞、テレビ番組
175	有限会社ワイケー	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/26	名刺
176	北日本放送株式会社	常設展示室	1	撮影	2/28	ニュース番組
177	是川地区振興会	是川縄文館全景写真ほか	11	写真貸与・掲載	2/28	ガイドブック
178	株式会社協同	風張1遺跡 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	3/1	ガイドブック
179	株式会社RABサービス	風張1遺跡 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	3/2	ガイドブック
180	毎日新聞社 八戸支局	常設展示室ほか	2	撮影	3/2	日刊紙
181	東洋哲学研究所	風張1遺跡 類杖土偶	1	写真貸与・掲載	3/9	学術誌
182	是川地区振興会	大正から昭和初期の調査状況写真	1	写真貸与・掲載	3/11	ガイドブック
183	青森県企画政策部企画調整課	是川中居遺跡 木胎漆器	1	写真貸与・掲載	3/11	ガイドブック
184	株式会社日テレアクセスオン	是川中居遺跡 籠形木製品	1	写真貸与・掲載	3/11	テレビ『日本テレビ「街活ABC」』
185	株式会社極東電視台	是川中居遺跡 赤色漆塗り壺形土器	1	写真貸与・掲載	3/11	テレビ番組『所さんのニッポンの一番』
186	八戸中心街ターミナルモビリティセンター	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	3/11	冊子『バスさんぼるるっふ八戸』
187	株式会社キョウエイアドインターナショナル	風張1遺跡 合掌土偶図面ほか	2	写真貸与・掲載	3/18	八戸市営バス側面広告
188	茅野尖石縄文考古館	風張1遺跡 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	3/18	展示図録
189	株式会社アズマックス	風張1遺跡 合掌土偶	1	撮影	3/25	テレビ番組『超古代からの挑戦状! 2』
190	吉田 悠馬	是川縄文館外観ほか	3	撮影	3/29	動画サイト投稿
191	101DESIGNS	是川中居遺跡 木胎漆器	1	写真貸与・掲載	3/31	会報誌『ゆうネット』

平成 27 年度映像資料利用依頼一覧 (3)

(2) 実物資料

平成 27 年度は申請件数 5 件、合計 53 点の貸出を許可した。依頼が 2 件あった是川遺跡のイモガイ状土製品は、南海産のイモガイ製装身具を模倣した土製品と考えられる資料であり、表面には白色土が塗布されている。復元製作した籠形木製品は、貸出した新潟県で復元楽器として商品化される展開があった。

No.	申請者名	資料名	貸出期間	利用先
1	国立歴史民俗博物館	是川遺跡出土 イモガイ状土製品 2点	H27.2/16 ~ 5/22	企画展示「大ニセモノ博覧会 - 贋造と模倣の文化史 -」
2	新潟日报社	中居遺跡出土 籠形木製品 (複製品) 1点	H27.6/22 ~ 9/5	『ふむふむタイムスリップ』 『ふむふむ縄文まつり』
3	八戸市博物館	中居遺跡出土 甕形土器・管玉、 是川遺跡出土 骨角器、 八戸城跡出土 土偶様壺形土器 計 35点	H27.4/1 ~ H28.3/31	常設展示
4	慶應義塾大学	田向冷水遺跡出土 玉髓製石器 11点	H.27.8/1 ~ 11/7	分析研究 (非破壊)
5	九州国立博物館	是川遺跡出土 イモガイ状土製品 3点	H28.3/18 ~ H 29.4/30	文化交流展 (平常展)

平成 27 年度実物資料貸出一覧

6. 資料収蔵

(1) 収蔵対象

是川縄文館では、八戸市内の遺跡から発掘調査等によって出土した遺物や、写真・図面等の調査記録、関連図書の収集・収蔵・保管を実施している。また、是川縄文の里整備事業において活用するため、漆器生産等に関連する民族・民俗資料も収蔵対象としている。

(2) 出土遺物等

出土遺物等については、平成11年度以降に八戸市教育委員会が実施した発掘調査によって出土した資料のほか、寄贈品等を収蔵している。収蔵施設には特別収蔵庫および一般収蔵庫がある。特別収蔵庫には国指定重要文化財、保存処理が完了した木製品・金属製品等の約700点を収蔵している。一般収蔵庫にはその他の土器、石器、土製品、石製品等が約2,500箱収蔵されている。収蔵庫内は資料を適切な状態で保管するため、常時温湿度管理を行っており、消火設備を備えている。資料は掲載されている調査報告書の図版ごとに平箱に収納している。

平成27年度は発掘調査で出土した遺物のうち、整理作業が終了した503点、33箱を新たに収蔵した。また、寄贈された土器2箱、漆掻き道具等1箱を収蔵した。

(3) 写真・図面等

写真・図面等の調査現場における記録のほか、整理作業の過程で作成された遺物実測図等は調査記録保管室で収蔵保管している。八戸市教育委員

会の発掘調査では、35mmフィルムカメラとデジタルカメラを併用して記録写真を撮影している。発掘調査の記録には恒久的な保管が求められるが、デジタルデータの長期的な保管方法については課題とされてきた。記録媒体として光ディスクを用いる場合、初期の書き込み品質の確保と、定期的な品質検査による媒体移行が必要となる。そこで平成27年度からは、デジタルデータの長期保存運用方法の規格であるJIS Z6017に準拠したアーカイブBDドライブ（パイオニア製 BDR-PRIMC-U-AL）およびブルーレイディスクを導入することとした。現在、蓄積されてきたデジタルデータを媒体に移行する作業を順次進めており、今後定期的な品質検査・媒体移行を実施していく予定である。

(4) 図書

図書については、48,559冊を所蔵している。各地の地方自治体等が刊行している発掘調査報告書等の考古学・歴史学に関連する図書が大半を占める。蔵書のうち24,243冊は故・江坂輝彌氏による寄贈図書（江坂図書）である。江坂図書は学史上重要な文献から外国語文献に至るまで多岐にわたる資料を含んでおり、調査・研究に活用されている。図書は書庫・研究室に収蔵されているほか、一部は閲覧コーナーにおいて一般開放している。

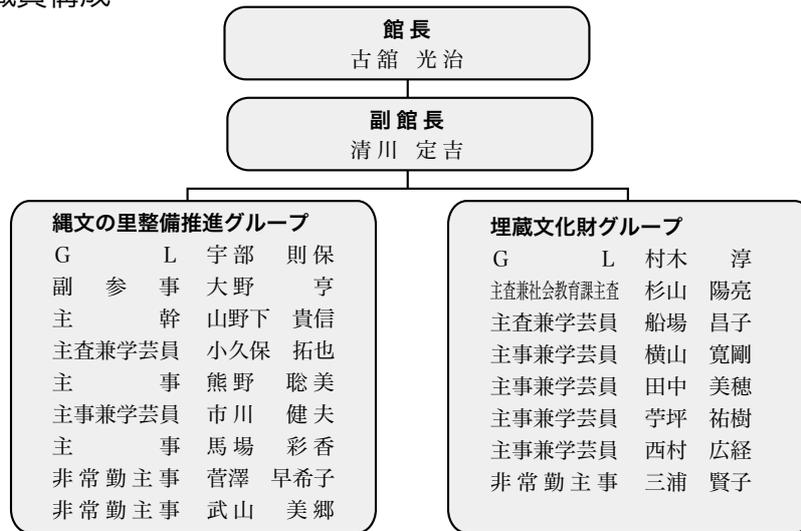
平成27年度は743冊（うち寄贈649冊、購入94冊）を新たに追加した。

7. 予算概要 ※補正予算の記載がない額は当初予算額を示す。職員人件費は含まない。

予算内容	予算額 (円)	備考
運営経費	104,721,000	
《内訳》		
教育普及	8,382,000	
施設維持管理	82,017,000	
その他	14,322,000	
展示活動経費	26,926,000	
《内訳》		
特別展経費	14,902,000	
企画展経費	12,024,000	
是川縄文の里整備事業費	53,751,000	
発掘調査事業費	99,886,000	
《内訳》		
八戸市内遺跡発掘調査事業費	36,898,000	
八戸城跡発掘調査事業費	55,020,000	
新井田古館遺跡発掘調査事業費	3,641,000	補正予算
調査管理費	4,327,000	
埋蔵文化財保存活用費	10,415,000	
《内訳》		
埋蔵文化財活用活性化事業費	5,049,000	
是川遺跡出土品保存修理事業費	5,366,000	
合 計	295,699,000	

VI 組織・関係団体

1. 組織及び職員構成



2. 八戸縄文保存協会

【設立年】平成7年 【会員数】149名(法人会員含む)

【目的・活動】

縄文文化の重要性を認識し、縄文遺跡及びその出土品の保存に協力するとともに、その活用を図り、もって地域文化・経済の振興に寄与することを目的に発足。当協会では、目的を達成するために次の事業を行う。

- ①縄文文化についての研修
- ②是川縄文館に関連する事業への協力
- ③縄文是川ボランティアへの支援
- ④縄文遺跡及びその出土品等の宣伝紹介
- ⑤文化財保護思想の啓蒙など

さらに、是川縄文館内でミュージアムショップ・喫茶コーナー「これカフェ」を運営し、来館者の利便性向上を図っている。

このほか、毎年8月には「これかわ縄文まつり」を催し、弓矢体験や縄文土器・土偶作り、火起こし等の縄文体験、スタンプラリーといったイベントと各種ステージの企画・実施を通じ、縄文遺跡の魅力について広く普及啓発を図っているほか、地域の活性化に寄与している。平成27年度は、8月23日(日)に20回目となる「これかわ縄文まつり」を開催した。あいにくの雨に見舞われ、中止した野外イベントがあったが、縄文体験コーナーや縄文鍋・トチもちのふるまいなどの各種イベントは好評で、平成27年度は約780人の来場者があった。

また、当協会は、「青森県の縄文遺跡群 世界遺産をめざす会」や「北の縄文文化回廊づくり推進協議会」に加盟し、縄文遺跡群の世界文化遺産登録推進に係る普及啓発を行っている。



これかわ縄文まつりの様子

平成27年10月4日(土)には、「青森県の縄文遺跡群『世界遺産候補地探訪』」を開催した。世界文化遺産登録を目指す亀ヶ岡遺跡、田小屋野貝塚を見学し、参加者から好評を得た。

3. 是川文化財愛護会

【設立年】昭和49年 【会員数】14人

【目的・活動】

是川遺跡とその出土品をはじめとする八戸市内の文化財の愛護事業に協力し、その活用を図り、地域文化の向上に資することを目的として発足した。主な活動として、是川遺跡の紹介や環境整備・保全活動、及び文化財愛護思想の啓蒙等がある。特に環境整備等の活動では、平成6年(1994)に実施された分館敷地内の復元竪穴住居建築において大きな原動力となった。また、復元竪穴住居における燻し等の保守管理活動や、縄文時代に生育されていたと考えられる植物の植栽活動を継続的に実施している。平成24・25年度には復元竪穴住居2棟の修繕を実施し、再整備が終了した。

4. 是川縄文隊

【設立年】平成24年 【会員数】9人

【目的・活動】

是川地域住民の宝である是川縄文遺跡の保存・活用に寄与するとともに、是川縄文館を核とした「是川縄文の里」の地域振興を図ることを目的に発足。当団体では、①是川縄文館来館者への地域のPR、②是川縄文館来館者増につながる地域特性を活かした活動、③是川遺跡の保存・活用・PRにつながる活動に関する事業を行う。

平成27年6月13日から10月31日まで、是川縄文館敷地内において、地域振興を図ることを目的に来館者へ周辺ガイドマップを配布したほか、是川産直野菜を販売する等、地域のPR活動を行った(10回開催)。



是川縄文隊の活動の様子

5. 縄文是川ボランティア

【設立年】平成8年 【会員数】52人

【目的・活動】

是川遺跡及びその出土品をはじめ縄文時代の調査・研究の成果を活用して、八戸市の縄文遺跡や縄文文化の素晴らしさを市民に伝え、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館の教育普及活動を支援することを目的とし、下記の活動を行っている。

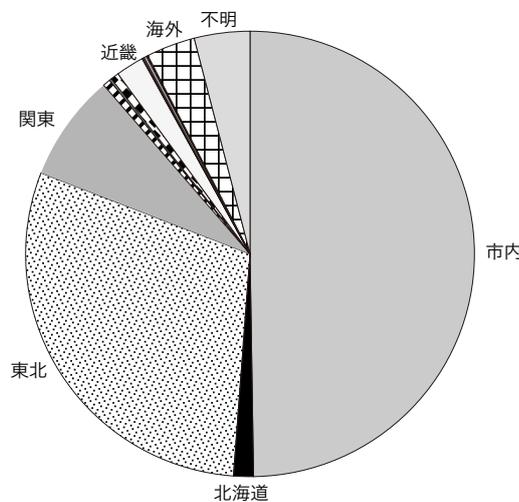
- ①縄文体験コーナー ②土曜日体験教室 ③グループ・団体の体験学習の指導 ④縄文土器野焼き
- ⑤学校・公民館等での体験学習の指導 ⑥研究・研修・学習会 ⑦是川縄文館本館・分館の展示室や是川遺跡のガイド

【活動実績】※体験学習指導の詳細については、Ⅲ-3教育普及、Ⅴ-2日記抄を参照されたい。



ボランティア養成講座での研修

月	開館 日数	延人数	一日平 均人数
4	27	251	9
5	27	236	9
6	26	245	9
7	28	261	9
8	27	266	10
9	27	238	9
10	28	275	10
11	25	245	10
12	23	182	8
1	24	198	8
2	23	205	9
3	28	262	9
計	313	2,864	9



都道府県	人数
八戸市内	3,594
北海道	103
東北	2,149
関東	561
中部	40
北陸	11
東海	43
近畿	147
中国	2
四国	8
九州	15
沖縄	7
海外	255
不明	289
総計	7,224

縄文是川ボランティア
活動人数

縄文是川ボランティア展示解説 地方別利用状況
※縄文是川ボランティアの聞き取りにより把握した利用者数

利用案内

○開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

○観覧料

区分	個人	団体
一般	250円	130円
大学生・高校生	150円	80円
中学生・小学生	50円	30円

※市内65歳以上、障がい者手帳お持ちの方は半額。特別展は料金が変わります。

○休館日 毎週月曜日（祝日の場合はその翌日） 年末年始（12月27日～1月4日）

○交通

バス：JR八戸駅から土日祝日のみ南部バスで22分

ラピアバスターミナル・中心街から南部バス（J42、J112）で約25分

中心街バスターミナル3（中央通）から南部バス るるっぷ（左回り）で約20分

自動車：八戸自動車道・八戸ICから約10分

○駐車場

本館：普通車86台 大型バス6台 障がい者用3台

分館：普通車30台

○所在地

本館：青森県八戸市大字是川字横山1

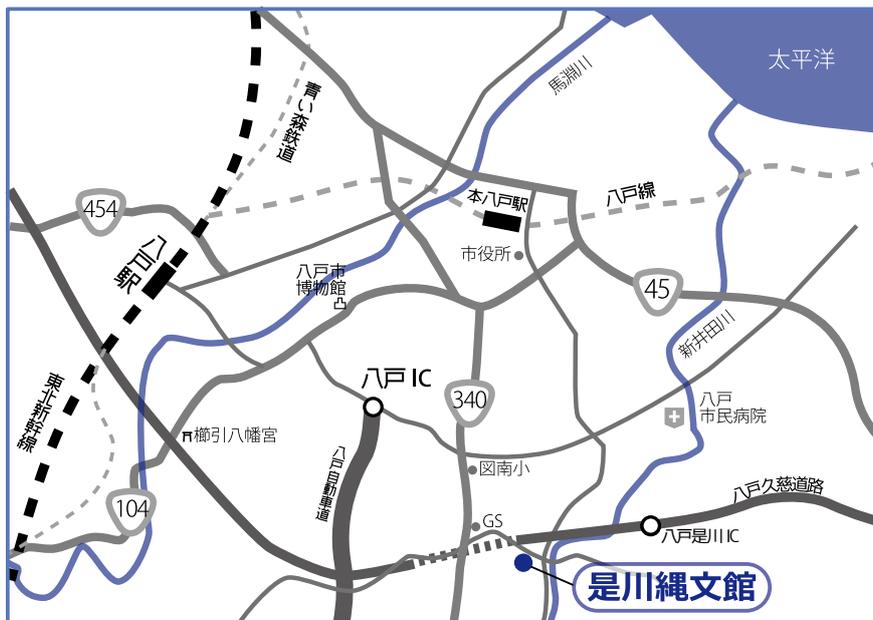
TEL 0178-38-9511 FAX0178-96-5392

分館：青森県八戸市大字是川字中居3-1

TEL 0178-96-1484

○ホームページ

<http://www.korekawa-jomon.jp/>



案内図



周辺案内図

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館
年 報
第 5 号 ー平成 27 年度ー

発 行 日 2016 年 6 月 17 日
編 集 ・ 発 行 八戸市教育委員会
八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館
〒 031-0023 青森県八戸市大字是川字横山 1
TEL 0178 (38) 9511 FAX 0178 (96) 5392
印 刷 株式会社オダプリント
〒 039-2245 青森県八戸市北インター工業団地 2-100
TEL 0178 (21) 2711 FAX 0178 (21) 2720

